

不登校・ひきこもりのこども支援に関する
アンケート調査の結果

令和5年7月

総務省

目 次

第 1 調査の概要	1
第 2 調査の結果	
基本情報	
(1) 調査時点の児童生徒及び保護者のこどもの学年	3
(2) 児童生徒及び保護者のこどもが学校に通えなくなり始めた学年	4
(3) 児童生徒及び保護者のこどもが平日の日中に最も多くの時間を 過ごしている場所	5
学校に通えなくなり始めたときのことについて	
(4) 学校で、誰がいつ、どこで、どのように相談を受け付けているか 知っていたか	6
(5) 悩みや不安を学校に相談しやすかったか。相談しづらかった場合、 その理由は何か	6
学校の教室に通えなくなったあとに、どこで、どう過ごしたいと思ったかについて	
(6) こどもの学び方・過ごし方を考える上で、支援情報があらかじめ 普段から提供される必要があるか（保護者のみ）	9
(7) 必要だと思う支援情報（保護者のみ）	9
(8) 必要だと思われる支援情報を得られなかったことで、悩んだり、 困ったりした経験（保護者のみ）	11
(9) 学校、教育委員会、民間施設等に対して、どこでどのような学び方・ 過ごし方をしたいのかといった、要望を伝える機会があったか	16
(10) 学校、教育委員会、民間施設等に対して、要望を伝える機会が 少なかったことで悩んだり、困ったりした経験	16
(11) 国は学校に通えていない児童生徒への支援に際して、「登校という 結果のみを目標としない」という方針を出しているが、この方針を 知っていたか（保護者のみ）	20
(12) 「登校という結果のみを目標としない」との国の方針を知っていれば、 学校以外の支援先を選んでいた可能性はあるか	20
学校以外の機関や施設に通うこととなって以降の状況について	
※学校以外の機関や施設に通っている場合のみ回答	
(13) 学校以外の機関や施設での学習や生活がうまくいっているかどうか について、学校が気にかけている（いた）か	21
(14) 学校以外の機関や施設に通うことになって以降、学校に対して、	

保護者の日ごろの悩みや児童生徒の今後の学び方・過ごし方に関する 要望を伝える機会があったか……………	21
(15) 学校以外の機関や施設に通うことになって以降、学校に対して、要望を 伝える機会が少なかったことで、悩んだり、困ったりした経験……………	21

学校に通えない傾向が見え始めて以降、今までを振り返ってみて

(16) 学校や教育支援センター、フリースクール等で過ごす機会を通じて、 児童生徒が悩みや要望を相談できる頼れる者がいたか……………	24
(17) 現在通っている学校（別室登校）や教育支援センター、フリースクール 等では、希望に添った満足できる過ごし方ができているか……………	24
(18) 学校や学校以外の機関・施設による支援全般に対する意見・要望……………	24
調査票……………	40

第1 調査の概要

1 調査目的

不登校児童生徒への支援がどの程度効果を発揮しているかを把握するため、児童生徒やその保護者が学校やその他の関係機関などから受けた支援に対して、感じたことを把握する。

2 調査対象

児童生徒及びその保護者各 490 人^(注)

(注) 当省が「不登校・ひきこもりのこども支援に関する政策評価」において実地に調査した小中学校、教育支援センター¹、フリースクール（14 市町村の 28 小中学校、21 施設）に通っている不登校経験のある児童生徒及びその保護者

3 調査方法

当省が実地に調査した小中学校、教育支援センター及びフリースクールを通じて、別室登校など、不登校初期の混乱期を乗り越え、居場所の確保ができてきている児童生徒やその保護者に調査票（巻末）を配布した。

なお、回答者の希望に応じオンラインでの回答も受け付けた。

また、i) 調査票の印刷、ii) 小中学校、教育支援センター及びフリースクールへの配布、iii) オンラインでの回答受付のための専用サイトの作成・運営については、民間事業者に委託を行った。

4 調査期間

令和 4 年 1 月下旬に配布を依頼、同年 2 月 21 日を返信期限として回収

5 調査票の配布及び回収状況

	小中学校	教育支援センター	フリースクール	計
当省が配布を依頼した人数 (A) ^(注2)	560 【28】	300 【15】	120 【6】	980 【49】
学校等が配布した人数 (B)	82 【12】 (児 41、保 41)	175 【12】 (児 88、保 87)	83 【5】 (児 36、保 47)	340 【29】 (児 165、保 175)
回答数 (C) ^(注3)	21 (児 9、保 12)	72 (児 35、保 37)	65 (児 26、保 39)	158 (児 70、保 88)
回収率 (C/B)	26% (児 22%、保 29%)	41% (児 40%、保 43%)	78% (児 72%、保 83%)	46% (児 42%、保 50%)

¹ 「教育支援センター（適応指導教室）」とは、「教育支援センター（適応指導教室）に関する実態調査」結果（令和元年 5 月 13 日 文部科学省）によると、「不登校児童生徒等に対する指導を行うために教育委員会及び首長部局が、教育センター等学校以外の場所や学校の余裕教室等において、学校生活への復帰を支援するため、児童生徒の在籍校と連携をとりつつ、個別カウンセリング、集団での指導、教科指導等を組織的、計画的に行う組織として設置したものをいう。」とされている。

- (注) 1 【 】内は施設数である。また、「児」は児童生徒を、「保」は保護者を示す。
2 各施設に対し、児童生徒10人、保護者10人分の配布を依頼（児童生徒490人、保護者490人）
3 オンラインで回答があったのは48人（児童生徒15人、保護者33人）

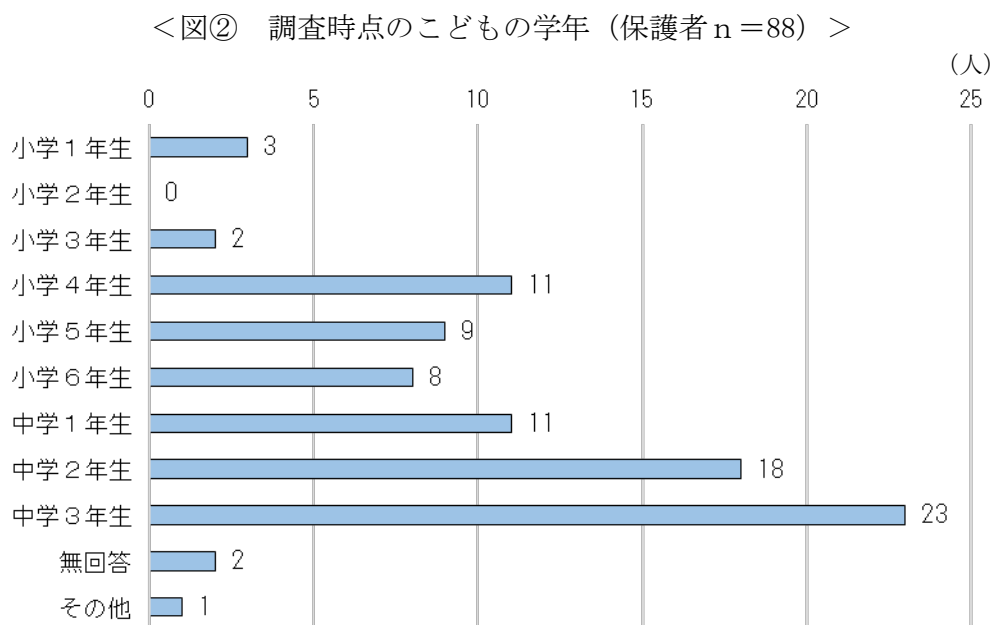
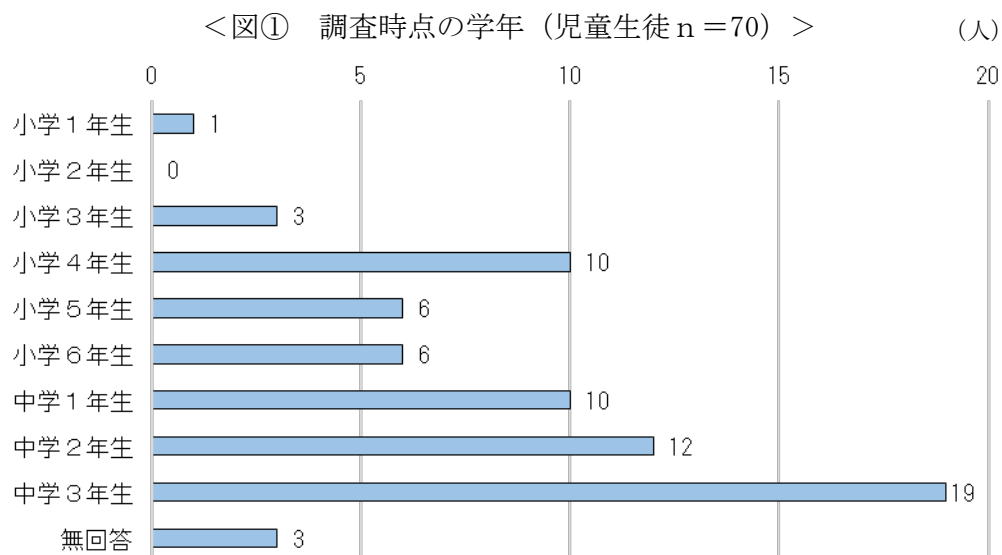
6 本調査結果の見方

- (1) n（人）は質問に対する回答者数で、100%が何人の回答かを示す比率算出の基数である。
- (2) 調査結果に基づく比率は小数第一位を四捨五入して算出したため、合計が100%にならない場合がある。
- (3) 自由回答は、基本的に回答の原文そのままであるが、個人情報が含まれる回答については、一部削除や置き換えている（〇〇市→市町村、〇〇教育支援センター→教育支援センター等）ほか、読みやすさの観点から意見をゆがめないよう十分に注意した上で一部修正して掲載しているものがある。また、同じ内容の回答が複数ある場合には、記載を省略しているものがある。

第2 調査の結果

基本情報

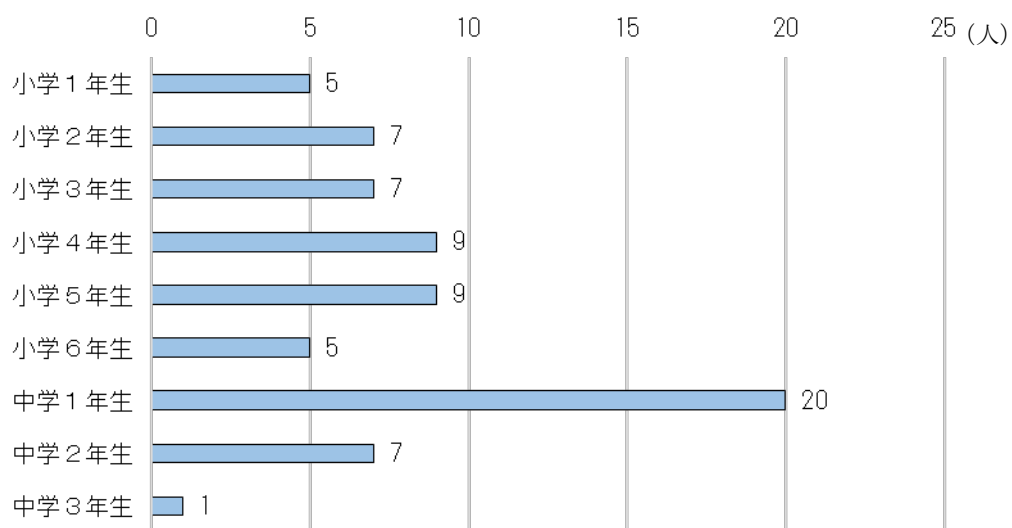
(1) 調査時点の児童生徒及び保護者のこどもの学年



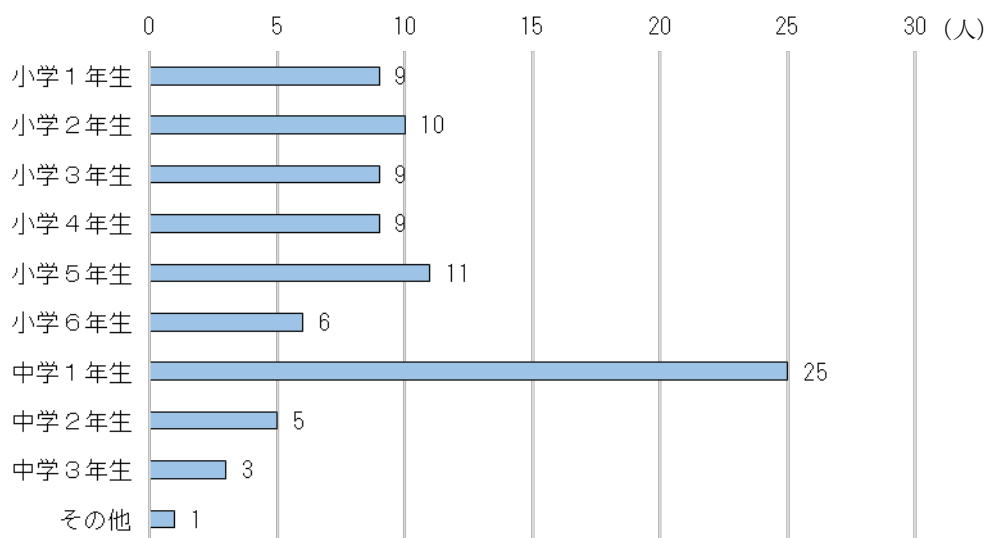
(注) 「その他」は2人のこどものことについて、「小学5年生」と「中学1年生」の両方に回答した者を示す。

(2) 児童生徒及び保護者のこどもが学校に通えなくなり始めた学年

<図③ 学校に通えなくなり始めた学年（児童生徒 n = 70）>



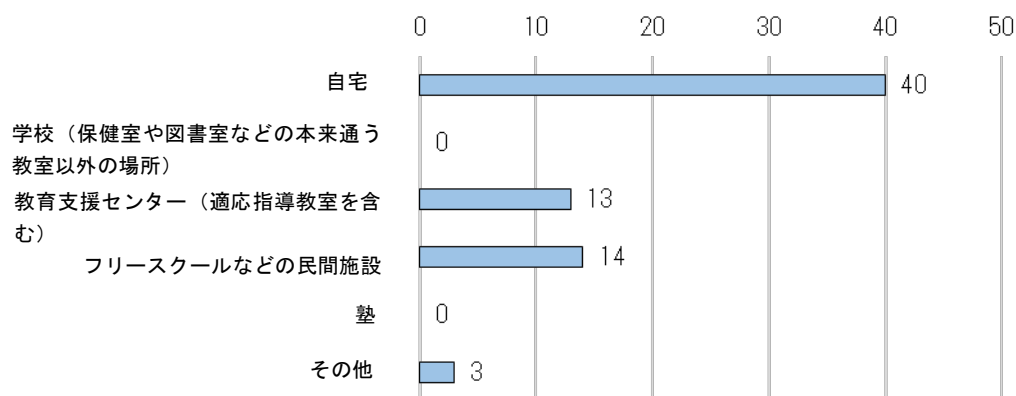
<図④ こどもが学校に通えなくなり始めた学年（保護者 n = 88）>



(注) 「その他」は2人のこどものことについて、「小学3年生」と「小学6年生」の両方に回答した者を示す。

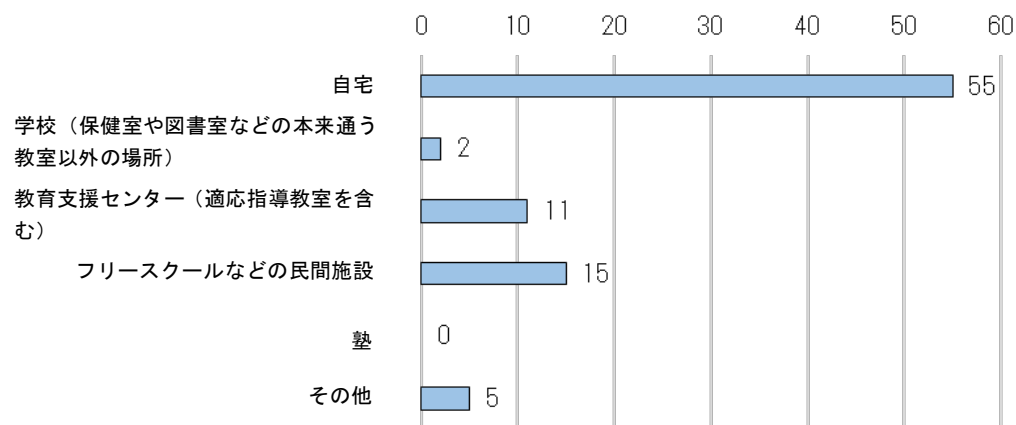
(3) 児童生徒及び保護者のこどもが平日の日中に最も多くの時間を過ごしている場所

<図⑤ 平日の日中に最も多くの時間を過ごしている場所（児童生徒 n = 70）> (人)



(注) 「その他」には「自宅」及び「その他」に回答した者1人、「学校」、「教育支援センター」及び「その他」に回答した者1人を含む。

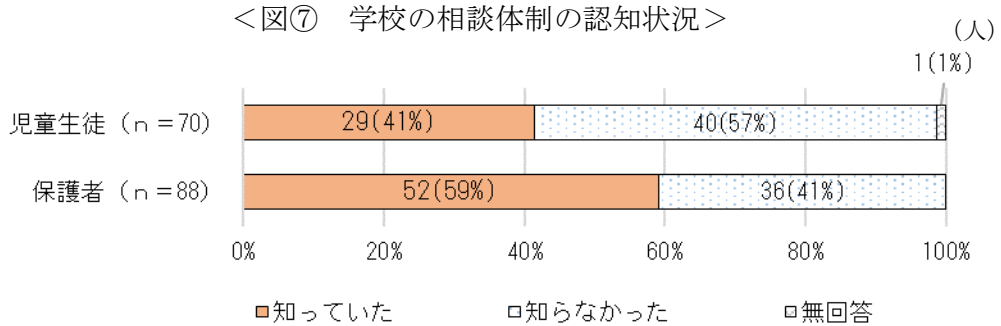
<図⑥ こどもが平日の日中に最も多くの時間を過ごしている場所（保護者 n = 88）> (人)



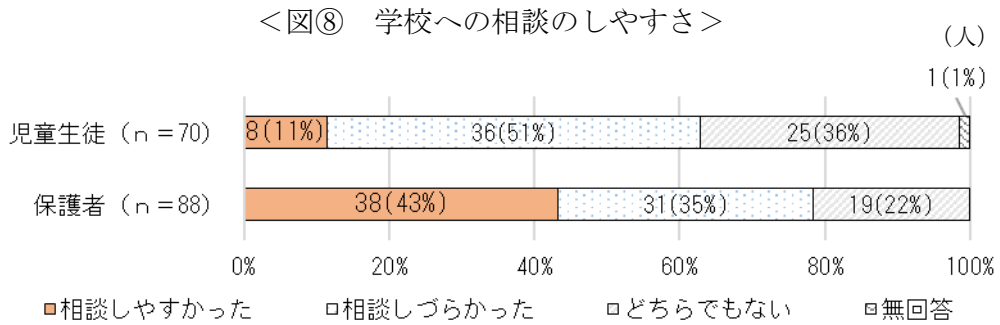
(注) 「その他」には「自宅」、「教育支援センター」及び「フリースクールなどの民間施設」に回答した者1人、「自宅」及び「教育支援センター」に回答した者2人、「自宅」及び「フリースクールなどの民間施設」に回答した者1人、「自宅」及び「その他」に回答した者1人を示す。

学校に通えなくなり始めたときのことについて

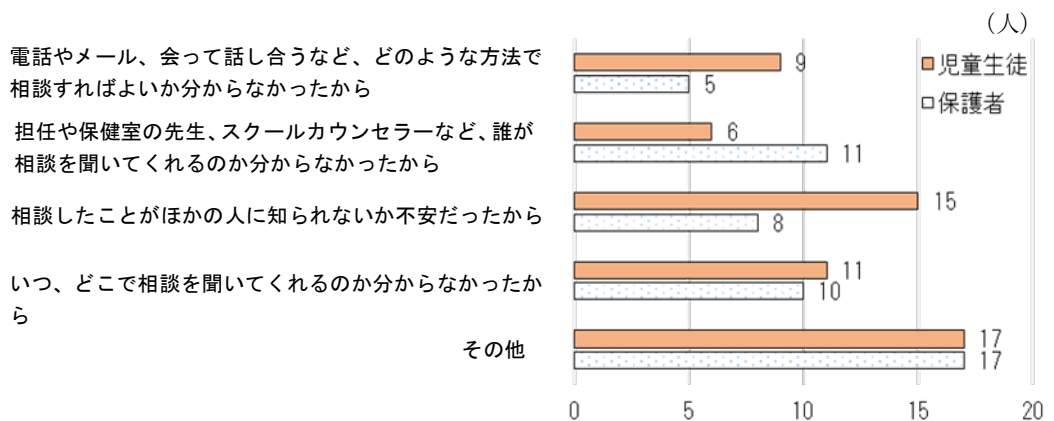
(4) 学校で、誰がいつ、どこで、どのように相談を受け付けているか知っていたか



(5) 悩みや不安を学校に相談しやすかったか。相談しづらかった場合、その理由は何か



<図⑨ 学校に相談しづらかった理由 (複数回答可)>



上記「その他」の内容（自由記述）

<児童生徒の回答>

- ・ 学校の教室で、他の子がいるから話したい先生がいても授業中で迷惑がかかるからあまり話せない。少しおそれ多い。（いそがしいから、時間があっても。先生が。）先生・生徒の少しかたい距離感で少し緊張する。（ふだんあまり話さないから。）
- ・ 他の人に相談できなかった。人に相談しづらい。
- ・ 他人に話したくなかった。
- ・ 言えなかった。
- ・ スクールカウンセラーにどこまで話してよいか分からなかった。
- ・ どのように説明したらよいか分からなかったから。先生に相談するのが、いやだったから。
- ・ 学校を信用していなかった。
- ・ 先生に話しても、信じてもらえない。
- ・ 言っても分かってもらえないし、否定されて、ちゃんと聞いてくれなかったから。
- ・ 子供の立場に立たない人が少しいるから。
- ・ 学校が嫌いだったから。
- ・ 不安を抱えていたが、相談しても無駄だと思った。
- ・ 聞いた人が不快に思うのではないかとこわかったから。
- ・ 自分が我慢すればいいと思っていたから相談しようと思わなかった。
- ・ 相談しようとも思わなかった。
- ・ なやんでない。
- ・ 学校に行くことがあたりまえだから。相談することで気を遣われることが嫌だった。私の考えを不登校生全員の考えと思われたくなかった。

<保護者の回答>

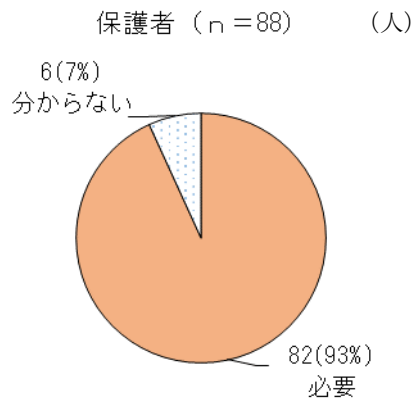
- ・ スクールカウンセラーの存在を知ったのが小学校を卒業する少し前だった。
- ・ 今聞いてほしい事も、予約制などで、すぐに解決できなかったのも積極的に相談しなかった。又、子供も不登校を選んだので、相談しなかった。
- ・ 学校に行けなくなった原因の1つが部活の先生に（そして部活に対して）あったので、学校側に相談しても何も変わらないと思った。
- ・ 登校できない原因の一つは、担任にあったので、学校が信頼出来なかったから。
- ・ あまりこちらの気持ちには寄り添っていないように感じて、気軽に言えなかったのでフリースクールの関係者の方に聞いてもらった。
- ・ 相談しても先生方は不登校の素人。なんとか登校させようするばかりで、期待する回答を得られることはほぼない。
- ・ 担任に全て相談していたが、聞くだけで何も得られることがなかった。また、上司に全く相談できていない感じがあった。

- ・ 相談しても変わらない感じがした。子供が体調をくずしていった。
- ・ 先生自身に不登校児に対する理解がなかったから。
- ・ 学校に相談したが、具体的な支援内容が聞けず、逆に傷つけられる発言があるなど、まるで頼りにならず、不信感がある。
- ・ 担任の対応が不満だった。まったく寄り添ってくれる感じではなく、相談するのも嫌になった。
- ・ 信用できなかつたから。
- ・ 先生に関しての事は言いづらい。
- ・ こども2人とも同時期に不登校となり、姉の時相談しても原因放置され状況が悪化、希死念慮が出るまで追い詰められたので弟への対応は大して期待せず、やってくれそうな範囲で依頼していた。
- ・ 相談しても相手の子の特性により、解決が難しい問題だったため。
- ・ 相談しても、こちらが言う「担任の不適切対応といじめ」という前提が学校側で認めてもらえず、本人の責任にされていたため、話が通じない。
- ・ 話しかけづらかつたから。
- ・ 私は相談するというよりも、直談判という形をとった。当時の担任の先生の自分のたてたスケジュール通りに子供たちをわくにはめていこうとするあり方に大変違和感をおぼえた。周りの方は、みてみぬふりが多かつたと思うが、自分が教師として働いてきたことがすべて”正しい”という感覚で常に接していたため、うちの第4子はこの先生のクラスにいる間、毎日出される宿題の量と完璧さを求められることから家出をくりかえすようになった。ここまで来てようやく、学校にかよわなくてもいいと許可が出た。
- ・ 少し休めば、すぐに学校へ復帰できるだろうという願いが強く、スクールカウンセラーの制度は知っていたもののなかなか予約までは時間がかかつた。小学校で相談していたので、中学で再び不登校になった時は、すぐに相談した。

学校の教室に通えなくなったあとに、どこで、どう過ごしたいと思ったかについて

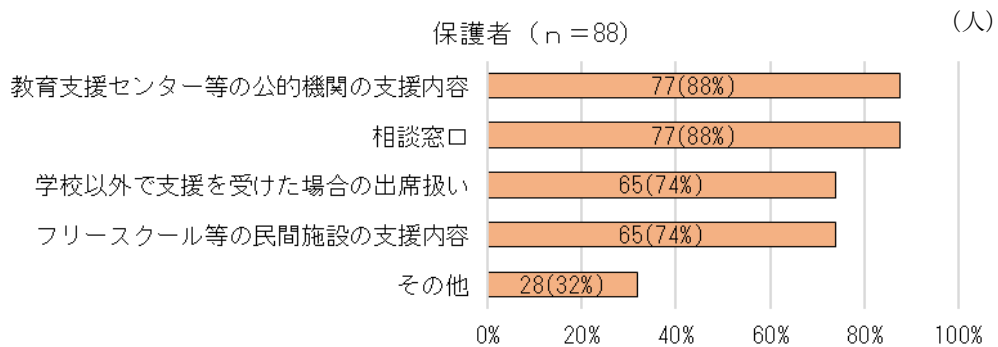
(6) こどもの学び方・過ごし方を考える上で、支援情報があらかじめ普段から提供される必要があるか（保護者のみ）

<図⑩ 支援情報の必要性（保護者 n = 88）>



(7) 必要だと思う支援情報（保護者のみ）

<図⑪ 必要だと思う支援情報（複数回答可（保護者 n = 88））>



上記「その他」の内容（自由記述）

（場所に関して）

- ・ 第一に、本人にとって安心できる居場所を確保し、生活リズムを整える事が出来る場所などの情報が必要。自己肯定感を上げていける場所・内容が必要（学力だけでなく）。進路・自立に向け活動できる場所・内容の情報（メリット・デメリットどちらも考え、本人が決めていけるような情報を提供）
- ・ 学校自体に、どこそこどういう避難場所があるよ、というパンフレットがあってもいいと思う。学校という集団自体が合わない子なので、子どもの興味に合わせた単発講

座（オンラインでも受けられる）への案内もいいと思う。

- ・ 学校に相談しても変わらず、病院の先生から支援センターのことを教わり、利用することになり、子供の体調不良が良くなった。どこに相談できるのかのハードルは高かった。
- ・ 公的、民間関係なく子供たちが安心して過ごせる場所などの情報

（受けられる支援に関して）

- ・ 金銭的な不安、通信制は高い…というばくぜんとした情報のみで、住んでいる地域では、どうなのか？支援は？など
- ・ 自分のペースで学んでいければ良いと思う。自宅でも受けられる支援や地域ごとに受けられる支援の一覧や連絡先などHPで見られたら動きやすいと思う。とにかく情報が少なすぎる。
- ・ ホームスクーリングの方法、経済的支援があるのかなど

（進学に関して）

- ・ 進学についての不安
- ・ 自治体によって、受験に重点をおいているのが何か（内申、出席、成績、受験のテスト点数の割合）
- ・ 高校の情報
- ・ 勉強の遅れは必ず取り返せるという事実を伝える事

（経験談等に関して）

- ・ 他の不登校児童の前例
- ・ 不登校児の保護者の心のケア。不登校児の保護者が集まれる公的な場所が必要
- ・ 不登校の子を持つ親同士の交流の場
- ・ 不登校を経て大人になった人の経験談
- ・ わが子のように学校に行きづらいついてきた子がその後どのような支援を受けたり、生活を送り、進学したり、自立していったのかを具体的に知りたい。

（学校との連携方法に関して）

- ・ 学校との連携方法
- ・ 学校との連携は必要なため、放課後登校は可能か、どこまで学校がフォローしてくれるか、を話し合う方がいい（「学ぶのは学校だ」と、本人が言ったため）（望んでいたため）

（支援者の専門性に関して）

- ・ 公的・民間問わず、支援者の経歴など。ろくな知識もないのに、配置されている人が

いると思うこともある。

(学校以外の支援先を検討するタイミングに関して)

- ・ 学校に通えなくなった時に、どのタイミングで子どもが教育支援センターなど学校以外の学べる場所を考えれば良いか。

(その他)

- ・ 子供、子供で支援が違っていると思う。いろいろなところに相談できるようになればいいと思う反面、たくさんあると親も子も混乱する場合もあると思う。
- ・ 設問選択肢の情報も必要かもしれないが、こうした情報ばかり提供されることで、学校はもはや居場所ではなく外部へと追いやられるように感じる。それよりも学校自体が、子どもにとって居やすい場所となるよう抜本的な見直しが必要だと思う。
- ・ 学校から常にこのような情報を教えてもらえたら嬉しい。
- ・ インターネットでは得られない様なコアな情報こそ教えてほしい。
- ・ 約4年ほど、小学校の特別支援事業の支援員として働く中、たまたまご縁をいただいた先生からみっちりこの特別支援について学ぶ機会をえた。だからこそ、現場での教師、教育委員会を含めてなぜいつまでも古いやり方ですすめていくのかが全くわからなかった。私はたまたまそうだったが、多くの人はこのようなことがあることさえ、知る権利・機会がない。そこにこの国のヤミを感じる。そこに対していきどおりをおぼえずにいられない。
- ・ わが家の場合、どこに相談したら良いかがわかる(小学校で配布されたスクールカウンセラーの情報)→相談する→個々のケースに応じて、必要な支援へつないでもらう、紹介してもらう→教育機関、または医療機関へ
- ・ 普通教育機会確保法
- ・ 少しでも見通しができる情報を少しでも知りたい。
- ・ すべてに丸をつけた。さまざまな情報を知った上で、家族でこんな方法があると考える機会が必要だと感じる。

(8) 必要だと思われる支援情報を得られなかったことで、悩んだり、困ったりした経験(保護者のみ)

(相談できる者に関する情報)

- ・ 一人で全ての対処をするのに精神的に大変だった。不登校になった時点での対処がすぐ行えていたら、状況は変わっていたかも知れないと本人も言っていた。親の考え方を根底から変えなければならないのでひとりひとりに不登校専門員の計画相談先を作るべきだと思う。
- ・ とにかく誰にどこに相談したらいいかも、身近にも誰も仲間がいなくて、フリースク

ールがどんなところかもわからないまま、飛び込んでしまった。結局それほど通えずフリースクール代を無駄にした。もう少し行政や学校や地域、社会が不登校を寛容に見守り特別扱いをせずにいてくれたら気が楽だったと思う。

- 全て母親が不登校になった原因、受入先、進路、毎日をどう過ごすべきか、どこに支援先はあるのかなど一から調べるしかなく、かなりの時間をそれに取りられること。学校は話は聞いてくれるがそれ以上の対策はなく、基本的に放置状態である。
- 誰に相談したらいいのか分からなかった。窓口として、担任の先生からアドバイス(カウンセラーの存在等)をいただけると変わっていたのかなと思う。
- 発達障害もあるかもしれないな、という思いもあったので、特別支援教育相談センターへ夏休みに入ってすぐに電話を入れるも、次年度の子どもへの対応で手一杯だからこちらへ回すリソースがあくには数ヶ月かかると言われた。学校のスクールカウンセラーに話しても有効打はなかった。むしろ学校へ押し出して！と言われた(本人は嫌がっているのに)。
- 毎回ただ学校に出向いて親がカウンセリングを受けるだけだったので、子供の特性に合った対処ができる様にアドバイスしてもらえる機関などを紹介してほしい。
- 外科手術後、近隣市町村のリハビリ病院から退所し、居住している市町村に戻る時、児童精神科の心理士の管轄が違ったため、受診まで1か月かかり、その間、荒れてしまい、生活ができないうらい大変だった。結局、児相に相談した。
- 悩んでいることをいつだれに相談したらいいのかわからず、とても苦しい日々を過ごした経験がある。

(学校内、学校外の支援施設等の情報)

- 不登校になったら「学校に戻れるように」することでしか不登校を脱する事ができないと思っていたため、他の選択肢を知るまでの間、本人、家族共にとてもつらい時間だった。
- 学校から支援学級の提案があったものの、登校しているこどもが対象であり、ほぼ通えなくなっていた状態では厳しいと言われた。もっと早く知っていたら違っていたかもしれない。
- 学校からは、スクールカウンセラーや適応指導教室の案内もなく、全て自分で調べて問い合わせた。どのような機関があるのか、どうすればいいのか、何もわからず手探りだった。初めから情報提供されていれば、これほど時間をかけずに済んだと思う。
- 不登校になって半年経ってから、教育支援センターの存在を知った。
- 適応指導教室やフリースクールがあること自体知らなかったのも、そのことを知るまで学校に行くという手段しかなかった。別室登校も時間が決められていて、その時間で行けなかった。
- 学校に相談しても登校することを求められるだけで支援もなかった。別室登校が予算や人員不足からできないことがあった。適応指導教室についての情報もインターネット

などで自ら収集するしかない。ICTを利用した出席について学校に説明したが受け入れてもらえなかった。学校自身に情報や理解が不足していると痛感する。

- ・ 情報も少なく、相談先や支援してくれる施設が不明だった。
- ・ 学校が安心して通えない状況となった時、フリースクールなど民間施設を自力で調べたりしないといけないのか、と思っていた。児童精神科を受診した時に、市町村の教育支援センターを紹介してもらい、初めて存在を知った。
- ・ 学校以外でどこにどのような場所や支援があるのか自分で探すにもとにかく情報がなかった。学校に聞けば公的な適応指導教室を紹介されたが、もっと幅広い様々な情報が欲しかった。
- ・ フリースクールなどの学校以外の学びの場についての情報提供が少なすぎて。もっと情報が欲しい。
- ・ 学校からは、学校に通う以外の選択肢が示されず、たまたま知人からフリースクールの情報を得た。うちの場合は、知人の子も不登校が何人かいてフリースクールへ行くことに迷いはなかったが、他の保護者の方は子どもが学校へ行けただけでもものすごく悩んで、罪悪感を感じる人もいる。まず子どもが行きたくないのに無理に行かせなきゃいけないという意識を変えて、多様な選択肢を示してほしい。
- ・ 自分はネットや書籍などで情報を得られましたが何も知らない人は何から手をつけて良いかわからないと思う。まずは担任の先生や支援の先生からの情報は必要だと思う。
- ・ 学校からは特に情報は得られなかった。間に入っていただいたスクールソーシャルワーカーさんから教えていただいたり、たまたま目にしたプリントで学習室の事を知って通いはじめ、息子の居場所ができた。

(指導方法等の情報)

- ・ 小学生こそ基礎的な学力をつけることが必要だと思うが、しっかりじっくり勉強を教えてくれる場については情報が少ない。家庭でどのように教えていけばよいかなど、指導法の情報も少ない。

(親の会などの情報)

- ・ 休み始めの時期が一番大変であったので、同じ学校で同じ悩みを持つ保護者同士のつながりが欲しい、また地域にある不登校の子を持つ保護者の会などの情報がほしい、と感じた。

(進路に係る情報)

- ・ 内申や出席状況が進学にどのように影響するか尋ねたが、一切答えられないと言われた。自力で調べて学校を当てにせずに、なるべく影響しないように出席日数を稼いでいるが、人生に関わることなのに、相談室登校や適応指導教室等、そういう提案も一切無

く、知らずに思い悩んだ。

- ・ 勉強方法
- ・ 不登校の子どもの進路など、前例があればどのようにしたらいいのか教えてほしかった。

(学校内での情報共有に係る情報)

- ・ 親も子も不安で、子どものありのままを受けとめるのに時間がかかった。自分の気持ちを言う子ではなかったのも、一緒に苦しんでいた。学校の先生は1年単位でかわり、次年度への引きつぎがなされているか不明な時があった。状態がその時悪化したので不信感がついた。情報があるかないかで選択の幅が広がるので、支えてくれる所が1つでも多いといいと思うし、情報提供でとまらず、実際に行動できるような支援が必要だと思う。
- ・ 学校との連携方法

(情報提供してもらったとする意見)

- ・ 出席扱いについて、教員によって扱いが異なったことに困った。子供が上を向けれるよう段階を作っていただけでも思う。教室の様子を教えて下さった先生がおられ、子供が安心してた。

(その他)

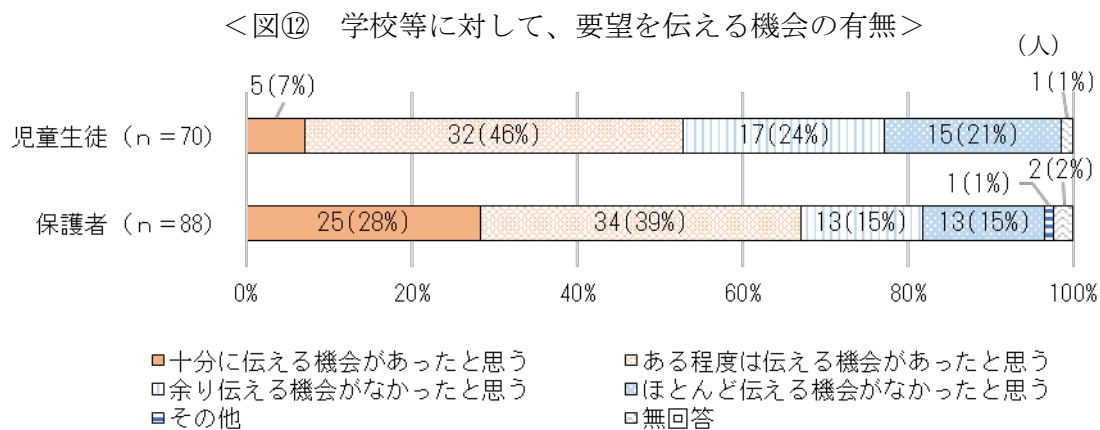
- ・ 適応指導教室を保護者から提案する場合、その時の先生が適応指導教室をどう捉えているかで、つながる子・つながらない子、支援につながるスピードの違いが出るのではないと思う。行くか行かないかは別として、このような施設があると知っていることと選択肢が増えて気持ちの余裕にもつながると思う。
- ・ 結局、共通していたのは、どの学校の先生も、地域の適応指導教室のチラシを渡すだけであり、そこまでの対応、知識はないのだなと感じた。現在の先生の業務の多さからしても、それは無理だろうと理解できる。あと、熱血や優しさの感情だけで、あまり知識がないのに押し付けられる時もあり、先生の気持ちは有り難いけど、それがかえってこちらを苦しめることも多々あった。それは、適応教室でも同じだった。ここの担当だけど、この人は専門的な知識はないのだなという方で、とても辛かった。なので、不登校の子への対応に関する専門的な知識のある方が窓口となって、相談出来るシステムになっていけば有り難い。
- ・ 子供が学校に行けなくなったときにどういう選択肢があるのかが全く提示されなかった。あまり学校から離れるのは良くないといわれ、休んでいても体育の日には体操着に着替えるのが良いとすすめられた。担任は忙しく、また、子供の様子も把握しておらず何を聞いても「友達と仲良くやっています。」といわれ学校での状況がわからず困った。学習面でも今後はどうしたらよいかかわからず、何の方向性も示されなかったため

親の負担が大きかった。

- 学校は学校に行けている子の対応しかない。行けない子に対しての対応が分かっていない先生が多い（不登校に対する理解の低さ）
- 居住環境に学校に行くか休むかの選択肢しかない。（適応指導教室なし、設置予定なし）教育委員会側も学校内でのボランティア増員で対応の方針を長年崩さず、学校へ行く選択肢が取れない子供達の行き場が無くなった。現在は私費で離れた市町村にある不登校支援団体へ通わせている。
- 自費でホームスクーリングするより方法がないため、家庭の経済的な困窮に直結。インターネット上にある情報の精査
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの言う通りにしても改善されず、母親は責められるばかり。不登校を悪とする風潮がそういう人達にまであり、親子ともに苦しめるばかりだとおもいます。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーにこそ多様な学び方がある事を肯定して頂きたい。
- 不登校児の対応
- まず第一に、数年前に法律がかわっているのに、このような立場にあるにもかかわらず、情報を全体にわかりやすく開示しようとするをしない。自分の働く学校から、不登校・ひきこもりなどおちこぼれを出したくないというおもわくが見え見えだった。私は今年で小学校に通算 24 年かかわった。4 人の子育てしていく中で、それ相当の体験をしていく中で、先生たち教師の意識の低さ、今だに、学校へ復帰するためのフリースクール（公立）みなが同じことを体験することが大切！など、もう正直時代おくれです。自分の立場を保護することしか考えられない教師が多すぎる。わがやは第 3 子からこのような環境にかかわっているが、子供たちうんぬんのまえに、学校にたずさわる人間、教師の資格ある人たちへのカウンセリング、コンサルタントが急務だと思う。第 3 子にいたっては Dr から通級支援の申しこみを言われたが、ムシされつづけた約半年
- 先生からの電話などで、親子が精神的に苦しかった。今も、担にんからの電話は嫌な気持ちになる。何もしてもらえなかったので…
- こちらから働きかけて（ネット）で調べないと情報は分からなかった。いじめの相談等は割と情報はあるが、不登校については何も分からない。
- 兄弟がおり、この子以外にも不登校を経験している。そのことで学校の方から「不登校の兄弟がいると、いずれその子も不登校になる」との事を言われ悲しかった。確かに選択できる事を他の子より知っているかもしれないけど、決めつけられた時は、嫌な気持ちになった。学校やスクールカウンセラーは、「障害があるのではないか？」と言って、一度診察するよう言われた。何でも病気にしたいのかと思ひ、腹が立った。
- 学校に行かないと高校は難しいと聞いて、不安だった。先生によって言うことが違ったりする。
- 兄が先に不登校になり、同じフリースクールに通うことにしたが、経済的な不安に襲われた。

- 「学校へ行かせなくてはならない」という考えから、行動を始めることが殆どだと思うので、親子で行き詰まるんだと思う。まず、「行かなくて大丈夫」というのを安心して選べる環境が必要だと思う。『見守る⇔ほったらかし』『厳しい躰⇔やりすぎ・虐待』という感じで、何をやっても、何かをやらなくても日々悩み苦しんでいます。

(9) 学校、教育委員会、民間施設等に対して、どこでどのような学び方・過ごし方をしたいのかといった、要望を伝える機会があったか



(注) 「その他」は、「十分に伝える機会があったと思う」及び「ある程度は伝える機会があったと思う」の両方に回答した者を示す。

(10) 学校、教育委員会、民間施設等に対して、要望を伝える機会が少なかったことで悩んだり、困ったりした経験

＜児童生徒の回答＞

- 流されてしまったりする。Noといえずにみんなと一緒に授業を受けていやになったことがある。
- 勉強への不安が一番大きかった。
- 自分が何に悩んでいて、何を話せば良いか分からなかった。
- 教室に行かないから、担任の先生に会えることが少なく、(中3時)会えたとしてもやることを伝えるていどで、あまり深く話せなかった。不安などで自分も、話す時間がないのなら、さけるようにもなった。イライラや不安でストレスをためこんで、時々泣いてばかりはつすることがある。勉強時間もあるから少ない時間で不安をできるだけ相談しようと思えり、うまく伝えられないこともある。落ち着いては話せない。じこけんおする。周りの子になじめないとやっぱり1人になる。(子どもの中で)いつも。
- お母さんが学校と話し合うと言うのでついて行っても、先生が僕に何か聞いてくれることはなかった。

- ・ 私は、学校や教室に行きたくないけど、勉強をしたくないわけではなくてどちらかというと、勉強はしたい。でも私は、みんなより、時間をかけてしまうので、どうしてもみんなと一緒に進むことが難しい。今まで、みんな出来ているのに自分だけ出来ないのが恥ずかしくて嫌で、ずっとみんなと同じペースで進むようにがんばってきたけど、逆に自分は学べていなかったりした事が続いた。今は、まだ学校に行く気はないが、自宅や教育支援センターなどで自分にあった勉強法や自分のペースにあわせて生活していく事で自分自身の事も分かり、心も体も傷つけず大切にできる事ができるかもしれない。そしたら心にも余裕ができ、友達に会いに学校に行ける日がくるかもしれない。また、自分のやりたい事、夢に向かって頑張る事が出来る。これからに向けてこのようにちゃんと自分の事を理解しどう進んでいくかという事について考える必要があると思う。
- ・ 学校には行きたくないと言ったら、学校に行かないからといって解決しないとされた。
- ・ 学校に行くのが不安だった。そして学校に行きたくなくなった。
- ・ 先生に無理矢理教室に連れていかれて恥ずかしい思いをした。
- ・ 不登校に関する知識や情報について学校側の認識がとても低い。
- ・ 学校の勉強をどうすればいいか。
- ・ そもそも学校の先生に会わなかった（会いたくなかった）
- ・ 先生に、どう伝えたらいいか分かんなかったから
- ・ そもそも、悩んだり、困ったりしてない。

<保護者の回答>

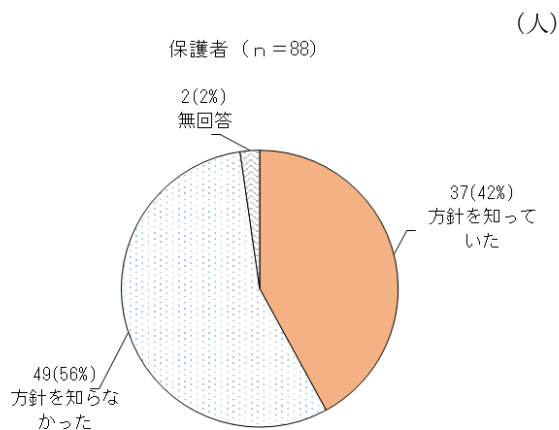
- ・ 中学生になってからは、「教育相談」の先生がいて、いろいろ相談できるようになったが、小学生の時は担任だけだったので（カウンセラーの存在を知らなかった）話ができなかった。
- ・ 別室登校も時間が限られており、先生が忙しいときは登校も歓迎されない。そのような状況でとてもこちらの要望を伝えることは難しい。オンラインも希望したいがとても言える状況にない。
- ・ どこにどのように悩みを相談していいかも、相談相手も見つからず、自分で探して遠くまで出掛けて勉強会やお話を訪ねた。今は割と不登校の子どもが増えて珍しく無くなったとはいえ、苦しんでいる状況は一つも改善されていないと感じる。SNSができる人はいいがそうでないと苦しいと思う。
- ・ 今は「その子の気持ちを優先させましょう」と言って、あまりかかわりを持ってもらえない。先生と接する機会がないので、相談できない。
- ・ 学校の人は「学校に来てください」「高校に行けなくなる」というような内容の事しか言わないから話しづらかった。
- ・ 部活動だけ頑張っても…支援センターや保健室に行っても学習が遅れる…などというように事を言われ、相談したいとおもわなくなった。

- コロナ対応で、学校のオンライン授業が始まった際、オンライン参加を希望したが、学校からは、不登校の子は対象外であり、オンラインは学校に来ている子の為である。と言われた。学びの機会を与えてもらえず、学校に失望した。市町村が、不登校の子の為のオンラインを月水金で1時間行ってくれているのが、ありがたい。たとえ、1時間でも、外部とのつながりを持たせてもらっている。(引きこもりに近い子供が、オンラインに毎回ログインするというつながりを持つことになっている)学習面の不安もあるので、毎日、もう少し深い内容になれば…と思っている。
- 今回アンケート外ではあるが、高1姉の時。進学内申点を盾に登校圧力をかけてくる学校側と心身ともに十分休ませたいというこちら側とが全くかみ合わなかった。伝えても結局登校へ向けて動く方へ持っていかれた。結局、不登校支援団体(といった社会的地位のある程度ある第三者)の介入がないと状況は変わらなかった。息子は小5より支援団体による心理介入のサポートを受けていた為そういったトラブルは中学進学後は起きていない。伝える機会がないというよりも、親のみのレベルで伝えても学校は動いてくれない。これでは言っても無意味と捉える。
- 学校に理解がないのですべてこちらから情報提供や依頼をすることになる。学校と保護者の間に専門家が入らないと話にならない。専門家のサポートを受けてみたくても辿り着くことが出来ない。
- 意向を伝えたが、反映されない。伝えても、反対のことをされたり、先生たちの中で共有ができていない。
- 学校は何食わぬ顔で通知表に「通うべき日」を記載し、欠席した日をカウントしているけれど、義務教育の義務は、子どもに課せられているものではなく子どもが通えるように国や自治体が環境を整備すべきという義務なのである、という話すら通じないのは一体なんなんでしょうね。
- 聞いても、そもそもが、教師自身知らない感じがして、反応が鈍かった。
- 子供の状況を聞くだけで解決に向かう具体策はなかったので途方にくれた。
- こちらから伝える努力はしましたが、予算がなく不可能と言われて終わりました(校内フリースクールなど)。使っていない教材や給食費などの引き落としが続くこと。評価評定や進路についての情報がない。
- 子供が休んでいる理由について、校内の教職員や生徒が把握していないことがあったので、もっとオープンにしてもらえたら良かったと思う。
- まずスクールカウンセラーが常駐ではなくしかも曜日によって異なるので、全体像を把握するには限界がある。このため、担任が全体を把握し関係者をつなぐのが望ましいが、業務過多のためスムーズにはいかないの、保護者が臨機応変に担任にお願いしたり、SCにお願いしたり、副校長に直接お願いしたり・・・など保護者が主体的に動いていかないと、子どもの学習や過ごし方を整えていくことが困難である。保護者によっては通えなくなった子どもの対応だけで精一杯となるので、学校との交渉などまで気が回らず、不登校が遷延化する可能性がある。

- 要望を伝える機会もなかったが、そもそも選択肢がほとんどない状態。不登校の小学生の居場所がない。
- 十分伝える機会はあるが、もし今の学校が本当に行けなくなった時のフリースクールや、別の学ぶ民間施設などの案内（知らせること）や情報提供を早目に教えてほしい。
- スクールカウンセラー等、何かあれば相談できる専門家の方がいるのは知っていたが、学び方、過ごし方についての場所や本人が選べる活動等に何があるかについては、知らなかったので、伝える意思・行動まではすぐにできなかったと思う。実際、教育支援センターについては、普段の周知はしていませんと担任から言われていた。でも、不登校は、今の時代、誰でもなり得る時代なので、保護者に情報を伝えておけば、すぐに動けるし不安感もすくなくなると思う。
- 集団生活の中で、どこまで個別対応を可能としているのか。
- センターの先生との保護者会はあり、様子を伝える機会があるが、医療機関の先生や心理士のサポートなど、教育センターでも受けられ、情報を共有→伝達できると、なお良いと思う。それぞれ、医療機関を受診していると思うが、保護者と一緒に受診なのでかしこまってしまい、教育センターなどリラックスした場所だともっと話せる事があるような気がした。
- 学校には保健室や図書館はあっても、そこに一人であることもできない。誰かがサポートするには、教員や学校職員が足りない為、学校に行くために仕事が休みの日は一緒に保健室、図書館に行くが、病人などで出ないといけないこともあった。学校内にも不登校サポートする人員やゆっくりできる環境場所心のよりどころを作る必要を感じる。
- 要望を伝えること自体、拒否されるような気がして、なかなか言いづらかった。ある程度、できることを示してくれたら、こちらも言いやすくなると思う。
- 仕事をしているので、先生方との時間調整が難しかった。本人の意向を聞いたうえで、何がしたいか？学校以外にサポートを受けられる場所が数少ない。

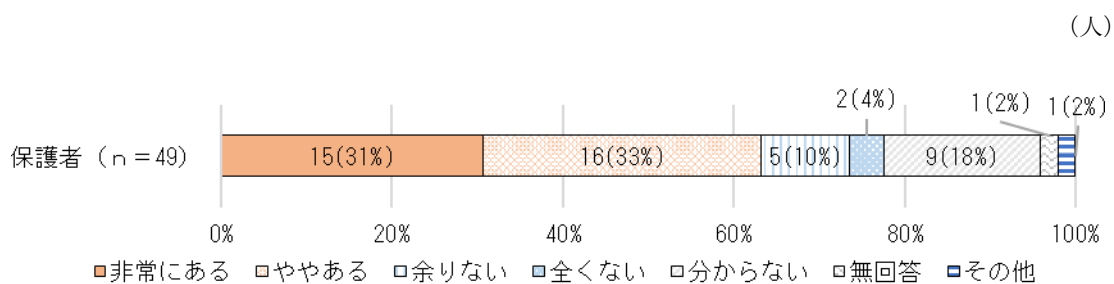
(11) 国は学校に通えていない児童生徒への支援に際して、「登校という結果のみを目標としない」という方針を出しているが、この方針を知っていたか（保護者のみ）

<図⑬ 国の方針の認知状況（保護者 n = 88）>



(12) 「登校という結果のみを目標としない」との国の方針を知っていれば、学校以外の支援先を選んでいただけた可能性はあるか

<図⑭ 国の方針を知っていれば、自宅以外を選んでいただけた可能性（保護者 n = 49）>



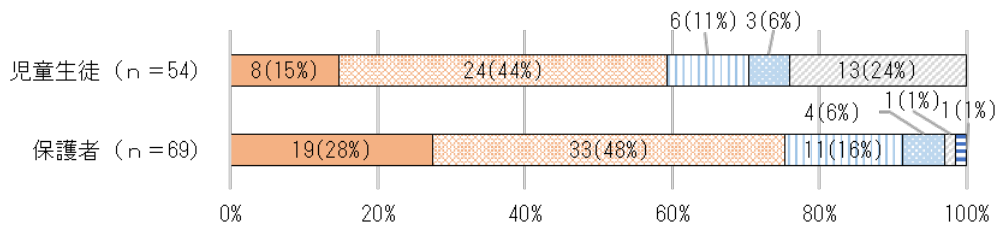
(注) 「その他」は、「非常にある」及び「ややある」の両方に回答した者を示す。

学校以外の機関や施設に通うことになって以降の状況について

※学校以外の機関や施設に通っている場合のみ回答

(13) 学校以外の機関や施設での学習や生活がうまくいっているかどうかについて、学校が気にかけている（いた）か

<図⑮ 学校以外の機関や施設での学習や生活について学校が気にかけてくれている（いた）か> (人)

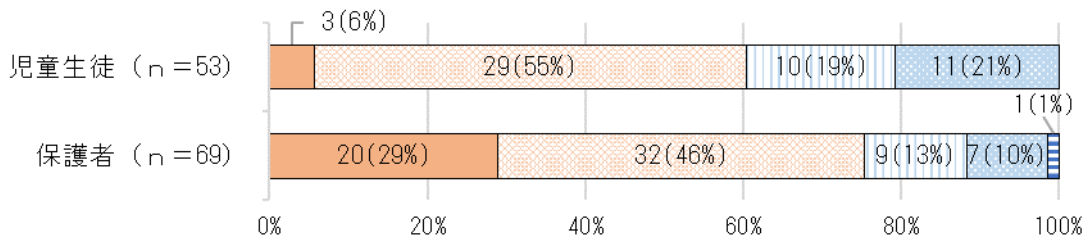


■とてもそう思う □そう思う □余りそう思わない □全くそう思わない □分からない □その他

(注) 「その他」は、「とてもそう思う」及び「そう思う」の両方に回答した者を示す。

(14) 学校以外の機関や施設に通うことになって以降、学校に対して、保護者の日ごろの悩みや児童生徒の今後の学び方・過ごし方に関する要望を伝える機会があったか

<図⑯ 学校以外の機関や施設に通うことになって以降、学校に対し、要望を伝える機会の有無> (人)



■十分に伝える機会があったと思う □ある程度は伝える機会があったと思う
 □余り伝える機会がなかったと思う □ほとんど伝える機会がなかったと思う
 ■その他

(注) 「その他」は、「十分に伝える機会があったと思う」及び「ある程度は伝える機会があったと思う」の両方に回答した者を示す。

(15) 学校以外の機関や施設に通うことになって以降、学校に対して、要望を伝える機会が少なかったことで、悩んだり、困ったりした経験

<児童生徒の回答>

- ・ 僕の話を知ろうとする先生はいなかった。

- ・ 何に悩んでいるか分からない。
- ・ ずる休みと思われている。
- ・ みんながやっているから私もやらないとダメだと思う自分が嫌になる。
- ・ 教育支援センターで、私は、話すのは好きだけど、人をからかうのがくせで、時々ひどいことを言ってしまうたり、しつこいことをしてしまったりして、自分もうまく周りとうそげせないのがわかって、1人ですごすようになった。先生は私のさそったあそびに（休けいするとき）つきあってくれるけど、やっぱりからかいをしてしまう。少しエスカレートもしてしまう。じこけんお。少しずつひねくれていく。周りの子の話も自分にはついていけなくて、周りほもりあがっていても1人になる。不安。私が学校に少し行くようになってから、周りの子ときよりができた。前みたいにかんたんに話せない。グループに入れたい。
- ・ そもそも先の事を考えていなかった（不登校の事で頭がいっぱいだったから）
- ・ そもそも伝えるきがない。
- ・ 色々あるのですが、悩んだり、困っている事はある。発達障害と診断を受けてからは、まわりのお友達の態度が変わって来た事により本人が消極的になり自分自身に自信がなくなり近所の人、兄弟の「障害者だろ！」と心のない言葉に生きている価値のない人間だからとひきこもりがちになり知人のいない場所なら外出するといった事を話す事がある。

<保護者の回答>

(話す機会がない)

- ・ 平日に放デイに行った日については、学校へ出席したというカウントになった。土曜日にデイに行っても出席カウントはつかず。ただ、行ったということをメモでお渡しするだけで出席扱い(学習サポートはなし)というのも変な話だな、と。小3以降は土曜日の午後だけデイへ行くようになったので、出席カウントもつかなくなりました。学校とは年1回程度しかお話する機会がなく、学年を先取りしたドリルが欲しい(他学年から融通してくれ)とお願いしたら断られた。同学年の学習では子どもにはものたらないので結局全ての学習には親が付き添っている(学校はなんのサポートもしてくれない)。
- ・ 支援教室に通うようになってからも、週に一度は学校(担任)と会わせるように連れて行っているが、特にプリントをもらうだけで、10分程度の面談のため、話す機会がない。学校はあまりあてにならない。
- ・ 今の担任があまり会おうとしないので、伝えることができていないが、特に困ってはない。

(学習支援がなされていない)

- ・ 適応指導室までの交通費が家計を圧迫しています。中途半端な時間の送迎のため、仕事復帰できない。適応指導室も学校も「教室復帰」を目指しているため、学習支援がさ

れていない。適応指導室、保健室、相談室、全て自習のみ

(学校にどのような情報が共有されているのか分からない)

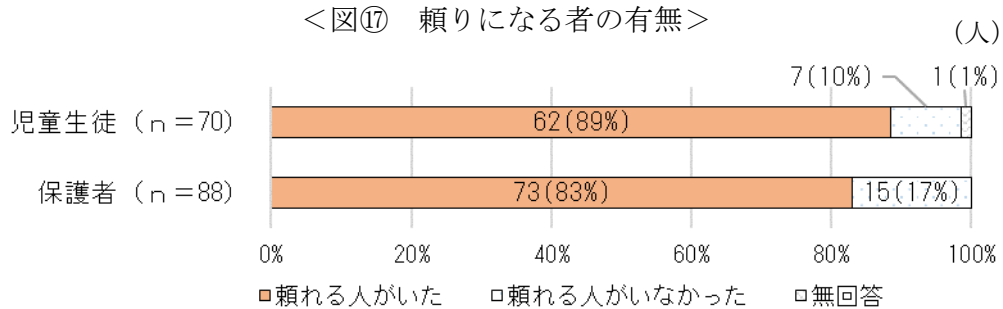
- ・ 市町村の適応指導教室に通っているが、学校のように懇談があるわけではないので、通ったことで子どもにどのような変化があるのか、学校にどのような報告が行っているのか、何を目的にしているのか、いまいちよくわからない。

(その他)

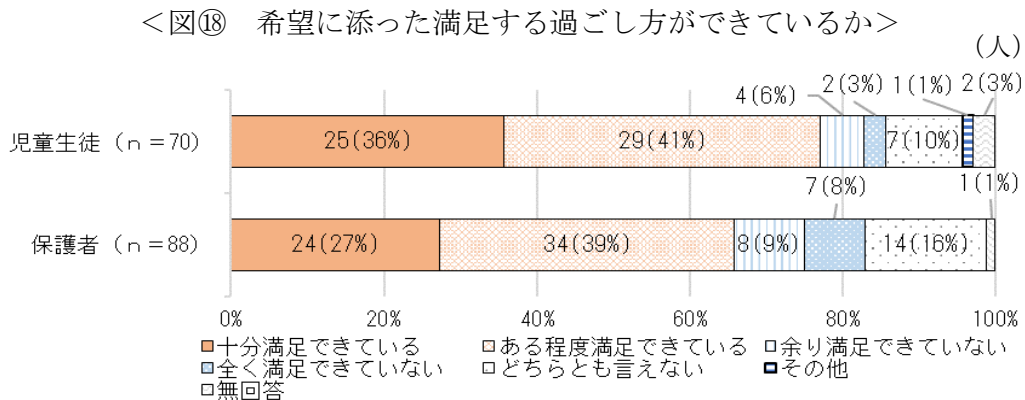
- ・ あまり関わりたくなかったので接点を減らしていた。
- ・ 親の負担としては、仕方はないかもしれないが、送迎しながら（1日往復2時間）仕事もしながら心身への負担が大きいと思う。
- ・ 子供自身が、状況を改善しようとしていなく、通えていない。
- ・ 相談室登校をするようになってから、学校とのやり取りが一切なく、何もわからない。もう当てにはしない。
- ・ 支援センターを利用する第1号だったからか、学校からどういった所ですか？何をしていますか？などの質問を受けた。教頭先生がちょくちょく見に来てくれて、子供は、安心したと言っていた。
- ・ 気になることがあれば主にフリースクールに相談している。ので、さほど困ってはいない。

学校に通えない傾向が見え始めて以降、今までを振り返ってみて

(16) 学校や教育支援センター、フリースクール等で過ごす機会を通じて、児童生徒が悩みや要望を相談できる頼れる者がいたか



(17) 現在通っている学校（別室登校）や教育支援センター、フリースクール等では、希望に添った満足できる過ごし方ができているか



(注) 「その他」は、「十分満足できている」及び「全く満足できていない」の両方に回答した者を示す。

(18) 学校や学校以外の機関・施設による支援全般に対する意見・要望
<児童生徒の回答>

(学校復帰へのプレッシャーをかけないでほしい)

- ・ 最近は、すこし学校に通えてきたから、みんなが頑張ろうと言ってきてすごくプレッシャーになる。他の人よりも勉強がおこなわれているから、頑張らないといけないことは分かっているけど、たくさんの人から高校生になるからもう学校に行かなきゃいけないと言われるのがつらいたまにいやになる。プレッシャーを感じてよけいに疲れる。
- ・ 学校に行ってほしいと言う気ちはわかるが、教室に入ったとたん「ここにいたくな

い。」と思う。でも、行くしかないなどかんじてしまう。こういうときに、「むり」と言うのがむずかしくて（きらわれるかもしれないと思ってしまう）、むりをしてしまい、またやすむ。と、なってしまうので、いやがっていたり、「いやだな」とか「帰りたい」とかを言えたら「がんばったね」と言ってくれれば、うれしい（たすかる）。学校に行くというかべは、すごくぶあつくて、でも、「行ってみよう！」と言われると、「はい」といってしまうところが、自分のいやなところ。なので、自分のペースで行けたらいいなと思う。

- 自分の話したことを聞いて学校にもどれるよう協力していただいたことには、感謝している。自分が不登校になってからSNSなどで学校に行きたくない人と話したりした。人によって、親が学校を休むのを許してくれない方や、学校の先生が学校に行かせようとしてくる人もいて、家が安心できる場所でない人が行きやすいような居場所が多くなればいいなと思った。
- 全ての人が学校で同じ事ができるとは思わない。その事で悲しむ人がたくさんいる。あたり前は人それぞれ。学校に行かなければいけないという考え方を考えてみる必要があるかと思う。「学校に行けない」という事だけでたくさん人が泣いている。
- しょう人数のクラスだとさんかしやすいと思う。

(勉強への配慮をしてほしい)

- 家にいる間1人でゆっくりできて良かった。勉強がおいつくか心配だった。
- 学校に行けなくて未来が怖い。
- 学校の先生が登校できていない生徒がいることを把握し、その人に配慮した授業をしてほしい。例えば、授業中にその人をあてない、授業で使うプリントを授業前に渡す、など
- べんきょうでわからないことがあった時にすぐに先生にきけるようにしたい。みんなが学校に行っている時間にそとにでた時の人の目がきになる。

(話したい先生と話せる時間を確保して欲しい)

- 勉強や自由時間（休けい時間）以外に、話したい先生と話せる時間ができるといいと思う。話すかどうか自由で、気軽に話せる時間。先生方にも休けいがあるから、というのはいいわけで、話す時間が決まっていれば、話したいときに話しやすい。話かけるゆうきもプレッシャーもいらない。他はほとんど快てき。周りの子もつづけて来ている子がたくさんいる。私が教育支援センターに入ったころより数倍に来る子が増えた。自分の問題で感じるプレッシャーいがいままったくつらいことはない。

(フリースクール以外の時間に何をしたらよいか教えて欲しい)

- フリースクールの時間をもう少し伸ばして、日中の「やること」がある時間を増やしてほしい。また、フリースクール以外の時間にどのようなことをしたらよいか教えてほ

しい。

(学級閉鎖になった場合に、フリースクールに行ってはいけないというのはおかしい)

- ・ 学校に行っていないくて、接しよくがないにも関わらず、学級閉鎖になった場合に、フリースクールに行ってはいけないというのはおかしいと思う。仮に出席日数はもらえなかったとしても、行けるようにしてほしい。

(家の近くに支援施設があるとよい)

- ・ 小学生のころは相手がいる遊びがしたかった(すごろくなど)。自転車で1人で行けるところに遊べる場所(支援センター)があるとよかった。お金がかからず引っ越せるなら違う学校に通いたかった。〇〇中のような不登校特例校の(人数が多い・学校が多い)ならよかった。相談員の先生と校長先生がもう少しやさしかった方がよかった。

(感謝している)

- ・ とても良くして頂いて、感謝している。
- ・ 学校では出来ないような体験をさせてもらっていて、毎日楽しい。苦手な科目も自分からやることが増えた。分からなくても、教育支援センターの方に分かるまで教えてもらって自習もする機会が増えた。
- ・ 教育支援センターやスクールソーシャルワーカーの方や親がわかってくれて話をよく聞いてもらったので感謝している。

(その他)

- ・ 不登校といういいかたはやめて
- ・ 学校に行っても褒めてもらうのがいやだった。「あたりまえ」や「～が正しい」といった考えをもった人の多さにおどろいた。
- ・ とにかく学校に行きたくない。学校に行かなくてすむようにしてほしい。
- ・ ネット社会になっている現在、あまりにもネットやマナーについての授業が少ないと感じている。(行っていないにしろ、ある程度授業の内容は分かる。)歴史はまだ分かるが、古文は本当に習う必要があるのか分からない。(あなた古文おぼえてますか?)周りが分からないものを自分だけおぼえていたとしてもそれは社会で必要はない。伝統を守るため?なら習い事でも守ることができる。(たぶん)今現在どんどん悪口、晒し、荒らしが増えているのにそれを運営にまかせるのではなく、根本の人から直すべきだと思う。(正直教育委員会でないので直るか?としたり85%ぐらい無理と思いますが、今一度考えてもいいのではないのかと思います。)正直自分も子供、そちらの仕事などは分からない。大変だと思うができればいいので、やってほしい。(いるいらぬなどはSNSとかでアンケート、さまざまな意見を取ってもいいと思います)
- ・ 学校からいじめをなくしてほしい

- ・ 塾での修学旅行に行きたかった。
- ・ 学校に行かなくなったとしても、ぜったい悩むとは、かぎらない。
- ・ 自分みたいな子どもに自分が本当にしたいことを、見つけさせてほしい。
- ・ 学校行かんくても楽しい
- ・ あんなとんでもない所(学校)には二度と行きたくない。
- ・ 意地悪な人がいるので学校に行けません。
- ・ 学校に行けないのは自分が弱いせいだから特に要望はない。
- ・ もうちょっと通う日を増やしたい。
- ・ 良かったです
- ・ ほっといてほしい時は、ほっといてほしい。しつこく聞いてこないでほしい。

<保護者の回答>

(国の基本方針を浸透させてほしい)

- ・ 支援も大切だが、まず校長先生や教員の方々に「不登校児童生徒の支援に対する国の方針」を浸透させていただきたい。小学生の時の校長先生が担任と一緒に家庭訪問してくださったが、「登校」させることを目標にされていると感じた。その時に「適応指導教室」が、ある事を教えてもらえれば今とは違った未来があっただろうと思った。先生方の業務が増え大変なのは知っている。そのためにスクールカウンセラーだったり他のカウンセラーの方々がいらっしゃると思うので、うまく連携して対処していただけたらと思う。最後に、各学校に常駐できるぐらいカウンセラーの方々がいらっしゃると親も子もいつでも相談でき安心して生活ができるのにと考えた。
- ・ 時々学校へ登校し、教室へ1時間だけ行ったり、別室ですごすこともあるが、その際に教室へ行くように強く促すようなことは、子どもにとって不安を強めることになる可能性があるので、慎重に対応していただけるとありがたい。(年配の先生に多いイメージがある)

(支援情報の提供をしてほしい、学校以外の支援の場が少ない)

- ・ 学校以外の支援の場が少なすぎる。通いたくとも通学が無理だったり、公的な支援がない所だと経済的にも通う事が出来なかつたりする。義務教育というのなら中学にかぎらず、その年代の子供たちすべてをフォロー出来るようにして欲しい。通ってもいない学校の卒業証書をもって何の意味があるのか？何を証明してくれるのか？今の時代だからこそもっと色々な学び方が出来るのではないかと思う。
- ・ 学校では、教育支援センターについては、最初は教えてくれなかった。ネットで調べて教育支援センターの事を知り、学校の先生に相談した。教育支援センターの存在をもっとアピールしてもいいのではないかと思った。不登校の親は不安や心配を抱えているので、そのようなセンターの存在を知って通えるようになれば、親も子も安心すると思う。

- 子どもが不登校になった場合、まずは、学校以外の機関、施設、どのような学習支援があるか等の情報を知りたい。(早ければ早い程良い) そこからやっと、子どもがどうしたいか、どう学びたいかを親子で考える事ができる。「学校に行けない(行きたくない)」を無理やり学校へ戻そうとする事は、場合によっては命にかかわる事になりかねないと思う。私達の場合、大きな病院の小児カウンセリングに通院したが、正直、わが子の為になっていたか、疑問に残るカウンセリングだった。長い間通院していたので、その時間をムダにしてしまったのでは…と後悔もした。その間は、学習支援の情報が何も知る事ができていなかったために、カウンセリングに頼るしか方法がなかった。経験してみて、私達が1番必要だったのは、初期の段階で、学校以外の学習支援を受ける事ができる学校以外の選択肢があるという情報がとても大切だった。つらい思いをされている子達へ、もっと周知される事を願う。
- 学校には保健室登校や別室に登校できる場所がなかった。もしあれば、もう少し違ったかと思う。スクールカウンセラーの先生を紹介していただき、親のみ月1回程度面談していただいている。担任の先生も、カウンセリングの予約を取ってくださったり、時々お電話をくださって、気にかけてくれる。教育支援センターには、週1回個人で時間を取っていただき1時間通えている。中学を卒業すると教育支援センターに通えなくなるので、高校になっても行ける教育支援センターのような施設があると良いと思う。
- フリースクールの様な場所がもっと増えたら良いと思う。子供達の居場所が自宅以外にもあった方が良いと思う。
- フリースクール、スクールカウンセラーの先生、担任の先生方のおかげで、最近は、学校に行けるようになった。たまに、お腹や頭痛いと、休むことはあるが、がんばって学校へ行っている。高校も、フリースクールがあれば安心だが、高校はないので、がんばって通えたらいいと思う。
- 不登校になり、学校で保健室登校していた時期もあったが、コロナ禍に入りできなくなった。市町村にある適応指導教室にもお試して通ったが、支援員の人数などいろいろ問題があったようで小学校低学年の息子が通うのは難しいとのことだった。(小中学生が通えるとしているが、実際には中学生が学ぶ場で小学生が通えるような体制にはなっていない施設だった)放課後等デイサービスにも問い合わせたが、息子に発達遅れがないことや放課後の時間帯の利用しかできないとのことで無理だった。また、市町村にフリースクールもなかったので、学校に通えず日中過ごす場所は家しかなかった。私はひとり親で日中は仕事に行くため、小学校低学年の子を1人で留守番をさせるという事は私も息子もとても不安だった。不登校のお子さんが日中に学べる場所が増えていけば良いと思う。
- 市町村の適応指導教室は週2回、午前か午後だけなので、学校に行けない子どもの居場所にはなっていない。民間のフリースクールは月額5万円ほどかかるため、補助なしに通わせるのは不可能に近い。低学年で不登校になり、1人家において仕事に行くことも難しく、親子で困り果てた。

(子供に寄り添ってほしい)

- 中3の子だけでなく、小5の子もなかなか学校に行けない状態になっている。「登校という結果のみを目標にしない」のは、もちろんのこと、画一的な授業だけではなく、個をもっと尊重できる環境がもっとあるといいと思う。学校の先生は本当に遅くまで子どもたちのために働いてくださるけど、子どもに寄り添おうとしてくれるか、子どもは敏感に感じとり、心を開こうとするかは、先生の資質に寄ることが大きいと思わざるを得ない。「どうしてるかな」と、ほんの少しでも寄り添う気持ち、思う気持ちは、行動に出るのではないかと思う。不登校特例校ができる際、転入も考えたが、「現学校との関係が良好だからこのままで」と言われた。ここまでにしたのは、先生をはじめ、子ども・若者総合支援センターの先生、親との連けいの成果だと思う。皆が信頼しあい、助け合うことで、子どもにとっても安心できるようになったのではないかと思う。もがいている親子はいっぱいいると思う。学校に行くのが普通ではなく、学校に行かないのも普通、個性となってほしい。子どもたちが安心して学べるよう、よろしく願います。

- (学校) もっと子供や保護者に寄り添うような支援をしてほしいと思った。頑張っても学校へ行っても「今だけきて、またこんとかありえん。」などと言われたりして、担任も嫌になり、まったく行かなくなってしまった。クラス替えでも、ある程度仲良しの子と一緒にするなど、もっと考えてもらえるといいと思う。

(フリースクール) 通い始めたのが遅かったので、受験勉強が主になってしまったが、いろいろな活動や体験をされていてとても良いと思った。先生方もとても優しく、寄り添った支援をされていて、「早くから知っていたら、もっと早く通いたかった」と子供も言っていた。

- 学校のサポートは大変良くしてもらっている。本人の「行きたいけど大丈夫だろうか…」という不安を安心にするためには、周りの周知と理解が必要で、何より人として心の教育を重視して一人一人に寄り添ったサポートを行ってほしい。スタートは大事。集団生活を苦手とする子、学校に通えない子が気持ちを楽にして学べる場が充実していくことを願う。学校に通えなくてもその子らしさがきちんと伸ばせて、成長できると、生きやすい社会の中で役割をその子なりにはたせるのではと…今は学校に行けない子が大人になるにつれ生きにくい世の中ですね。今後の支援の充実と進展を宜しく願い致します。

(費用負担が重い、フリースクールにも支援してほしい)

- 民間のフリースクールは利用費用の面でかなり負担になる(また交通費や送迎なども含む)。学校に行かないのに学校のひかれる物が多い。給食費をとめる事を学校側からの提案がなく行っていないのにかなり払っていたなど。
- フリースクールは公的支援がなく、通う人が(家族が)学費を払っている。決して安

い額ではない。所属する公立小学校では毎年教科書も配布されるし無料。フリースクールにも公的な支援をおねがいしたい。または他の市町村のように対象児童に学費援助をしていただきたい。

- ・ (金銭面でのサポート) 民間のフリースクールを選択すると、全てが自己負担。給食の補助分の金額のサポートでもせめてあればと願う。もしくは適応指導教室やフリースクール等への昼食代の補助。
- ・ 学校に行けなくなってから家で過ごす以外になく、そのために母親が離職しなければならなくなった。民間の機関に通うのは経済的に不可能になった(塾含む)。勉強の遅れからますます行きづらくなるのを避ける為には、家庭で少しずつでも親が教えるしかなく、現在の指導法と親が受けてきた指導法とは異なる点も多く困った。学校にきいても(たまたまその先生の判断だったかもしれないが)「教科の通りで大丈夫です」としか言われなかった。たまたまコロナになり休校への対策として、大手の予備校が無料で算数のオンライン授業などやってくれたのでなんとかなった。適応指導教室に通うのも、親の送迎が必要なことは親にとって負担であり、スクールバスなどあれば良い。また、適応指導教室では小学生は基本的に自習になると言われたことも正直ショックだった。所属校の空き教室などで、個別に算数や国語だけでも授業をしてもらえる仕組みがあると、子どもも親も負担が少なくなるのではと思う。不登校の児童にとって、知っている友達や先生のいない場所はハードルが高く、適応指導教室に通える子は多くないように思う。
- ・ 学校以外の方法に関してはお金がかかる場合が多い。金銭的支援が欲しい。不登校児が金銭的な面で学習面でも精神衛生面でも苦境をしいられる現実を、知ってほしい。家庭内暴力などにもつながる。
- ・ 自分の子は、通っているフリースクールがあっていたので生きとして自分を取り戻した。公共施設が足りないので、民間の施設は大変ありがたいがしかし、費用は高く補助はない。しかも、学校に学級費は納めなくてはならず親の負担が多い。国は、学校に子供の補助金を出していると聞いた。その一部でも民間の施設に回してほしい。また、給食に関しても同じ。これからも学校に通えてない児童が減ることはないと思う。通えなくなる前の対策、通えなくなった後の対策、このどちらの問題の解決を早く望む。
- ・ わが家は子ども2人がフリースクールに通っていますが、経済的負担が大きい。しかし、子どもが楽しそうに通う姿を見ると、そこに通うことは間違いではないと思う。たまに学校への登校を促しますが、嫌がる。経済面で格差が出ないような対策を望む。経済的支援がほしい。

(オンライン授業の整備をしてほしい)

- ・ 教育支援センター、保健室、隣の自学教室を利用している。両教室共、自学が基本。コロナにより、市町村の授業動画などをきっかけに、オンライン学習をセンターで利用させて頂けるようになり、良かったと思う。ただ、私の子は、自学自習では、毎回受け

るテストの結果でなかなかモチベーションを維持するのが難しく、ひどく落ち込み、自己肯定感が下がってしまい、立ち直るまで時間がかかってしまった。そして、次のテストを受けると…。心理士が常駐とまではいかななくても、週2ぐらいで居て、面談する機会があるといいと思った。また、コロナの休校にともない、オンライン授業などICT活用へと進んでいるが、まず不登校の子供のクラスに対し、オンライン授業で参加できるといいと思った。クラスの一員なのだという意識を本人やクラスの子達にも感じてもらえると思う。もちろん、授業の内容、進み具合も自学より理解が深まると思う。センターから、保健室隣の教室からのアクセスだけでなく、家から出る事ができない子供達もアクセス出来るよう、学びの場を持つことが出来ると思う。すでに取り組んでいる自治体もある。(ライブ配信、録画など)

- ・ (出席扱いになるオンライン授業の導入(全国ネットで)) 单元ごとに学年を越えて受けられる授業があったら学びに向かおうとした時に始めやすいのではと思う。通っていない中学校から受け取る通知表を見ていつも思うのは、月数回の訪問で先生書くの難しいだろうなという事。フリースクールでの活動をご自身の目で見て、毎日関わるスタッフから話を聞いて感じとって頂きたい。座学をしていなくても日々成長している。
- ・ 学校に行けない、教室に行けない、同年代の友人に会えない。HSCの子供にとって、学校はいまさら行けない場所となってしまっている。コワイのです。「学ぶ機会」をください。子供に、不登校=失敗ではないと伝えたい。明るい未来があると。オンラインでも人との関係をもつ事が自信につながっていくので、オンラインの整備を。

(本人や家族を含めたメンタルの安定が必要)

- ・ 不登校になると本人も辛い、保護者も不安が大きくなると思うので、子どもだけではなく、親が相談できる場所があると、焦らずに見守っていけるようになると思う。学校に行かないと将来が不安になることがあると思うので、学区以外の選択肢を知ること、安心できるのではないかと思います。自分のことを分かってもらえる場があることで、少しずつ前に進んでいけるようになると思う。
- ・ 昔よりは選択肢があるが、私が暮らす地域はフリースクールが1ヶ所しかないし、塾は山ほどあっても、子供や親が苦しい気持ちを吐き出せるような居場所は少ない。少しでも増えたらいいのと思う。私も子供も今はのんびりゆったり過ごせているが、不登校初期は精神的に参っていた。何度も自殺を考えてしまったり、いっそ心中してしまおうかなど…恐らく長期に渡って苦しんでいるお子さんや親御さんがいるとおもう。フリースクールや相談機関がもっと身近な存在になってほしい。
- ・ 親も相談できる場所が少なく辛い。親の会や、カウンセリングなどの場を設けて欲しい。

(評価の在り方を考えてほしい)

- ・ (出席扱いについて) 学校がない日にフリースクールに出席しても出席扱いにはなら

ないし、学校がある土日にフリースクールに行っていないと欠席になる。来年は受験生、内申書に出欠席数が記入されるので気になります。

- ・ 不登校でも市町村の施設には毎日通い、勉強も進めている。ある教科が得意で中学で10位以内に入る程度の実力はあるものの、学校へ通えていない為成績が「3」になるのは仕方ないとは言え本人もがっかりしていた。それでも、在住の市町村はまだ手厚い方かと思います。学校には不登校ですが、市町村の施設はいやがらず毎日通えている。
- ・ 適応指導教室での自習等も評価を考えてほしい。(あんなに頑張っているのに評価されないのは可哀想)
- ・ 我が子は、登校と、不登校を繰り返している。中学生になり、教室や、学校に行くことは難しくなったが、コロナ禍でオンラインを利用するようになり、オンラインでの交流は比較的ハードルが低い事がわかった。現在は、オンラインでの授業を毎日繋いでいる。しかし、現状ではオンラインで参加しても何の評価にも繋がっていない。自宅での学習を評価することは難しいと思いますが、小中学校でも色々な学び方が選択できるようになって欲しいと思う。
- ・ 学校に通って出席日数や成績表がつかないと受験からはじかれる今の公立中高一貫校のシステムはどうにかならないか。娘はいわゆる浮きこぼれ。勉強への意欲は旺盛ですが今の学校のカリキュラムだと皆平等、抜きん出るとは許されない。結果、学校の授業に意味を見出せなくなり通えなくなった。戦後から全く変わらないシステムのせいで、将来有望なたくさん子ども達はその枠に入りきれない場合は学びの場が絶たれてしまっている。それが今の日本の現状。不登校になってしまった、なりそうな子どもたちを生かすも殺すも日本の教育制度。子どもの成長はあつと言う間。疑問を持たず何でも大人の言うことを聞く子どもを量産する事に重きを置くのではなく、ICTなどを有効活用し、一人一人に沿った学びのあり方を早急に国に整えていただきたい。

(学校からの連絡がほしい)

- ・ 施設の方には、とても感謝している。本人の苦手部分を克服するようアドバイスがあり、人との接し方が上手になった。学校の方は、中学3年生になると学校からの連絡がなくなり、学校やクラスで何があっているのか解らず、大きな行事への参加がしづらくなり、本人は参加したいのだが、クラスに入れず恐くなり、結局参加できなかった。担任の先生もご家庭がありたいへんだとは思いますが、2、3日に一度は電話がほしかった。施設に居場所があり、安心できた。ありがとうございます。
- ・ 現在通っている機関は、とても熱心に子ども自身にも保護者にも関わっていただき、娘も私達親もとても救われた。日々子どもの様子を伝えてくれ、今後の計画等も細めに連絡をして下さった。学校は、担任によって対応が全く異なり、用事がない限り連絡をくれない年度もあった。なので、教科書さえもらっていない年度もあった。学校では、不登校児童に対しての情報共有がされていないのでは？と疑問に思った年度だった。今年度は、担任の方からも色々アプローチを考えてくれたりと、忙しい中対応して下さい

りとても感謝している。学校側が、不登校初期の頃の対応をもっと速く、また保護者へ分かりやすく対応して頂けたらいいなと思います。

(国の基本方針があっても、将来への道筋が見えないと、当人は苦しい)

- ・ 学校に登校しなくてもよいと言われても、中学生にとっては、高校進学の際に、中学校の出席日数が問われるという現状がある。そのため子供は、休んで良いけど、休むと高校進学に影響が出る、という狭間で大きな葛藤を抱える。学校に行かない選択をしたときに、その先の高校進学、さらには大学生、社会人へとなる道筋が見えない限りは、当人はとても苦しい状況に置かれる。この矛盾が解消されることを願っている。

(国の方針を理解してほしい)

- ・ 最初、学校を休まないようにと、また、登校した際に本人がつらくなったら帰して下さいとお願いしていたのに、帰らないよう別室で圧をかけられたので、「登校という結果のみを目標にしない」を、教師は皆知っていてほしいし、心のケアについて学んでほしい。話し合いの場で、担任だけでは事実と違う報告をされたり、トラブルが多いので、必ず他の先生にも入ってもらいたい。

(不登校児童生徒に対応するための知識が不可欠)

- ・ 有料でも良いので、気持ちの不安定な子供に理解、知識のある方に対応して頂けたら、全員ではないが学校に復帰出来たり、フリースクール等自分の行ける場所を見つけることができる子供もいると思う。初期対応を誤れば、人間不信に陥ってしまい夢も希望もなくなってしまう。適応指導教室の対応で、学校へ戻るのが普通などと子供に言ってしまう方がいて、伝え方が間違っている(言葉が足りない)ので、専門員の配置が必須であると思う。こういった子供の対応は、元教師という肩書だけではなくコミュニケーション力があり児童心理の知識や発達障害の知識(有資格無資格は問わない)が不可欠に思う。

(いじめの加害者への対応をしてほしい)

- ・ いじめの加害者が何事もなく通学していて、被害者が不登校や転校を余儀なくされるという状況を何とかしてほしい。
- ・ いじめの傾向がみられる場合いじめた側こそ、精神的に病んでいる可能性が高い。被害者側がいくら頑張っても加害者をカウンセリングなどしない限り根本は解決しないと思う。弱者を、救うのもいいが加害者側の家庭環境などを覗いて改善していくなどの事もしてほしい。

(感謝の声)

- ・ 子どもの学習面についても、とても良く、親にも、そして子ども本人にも相談や提案

をして頂いた。何より、困り感を持っているのは、本人だけではない。親も不安なんだという事に理解を示してもらえた。フリースクールの先生方の温かさのおかげで、私は、どこからも、誰からも孤立することはなかった。一人ではなかったという事が本当にありがたかった。

- ・ 今通っているフリースクールで友達もできスタッフの人にも大変よくしてもらっている。学校に対しても学習面でもサポートをしてもらい大変助かっている。ここに通い始めて成長を感じている。ここに出会えて本当によかったと思う。フリースクールの支援の強化をお願いします。
- ・ 今関わっている学校や、支援室の先生方には、できる限りの事をしていただいている。周りのサポートは整っていて、とても感謝している。子供の中で気持ちが動いていく事を願い、支援を続けていきます。

(その他)

- ・ 未だに、何が正解か分からない。登校を無理強いしても逆効果だと思うが、そこ（登校出来るようになる）を目指すのが適応指導教室だと説明を受けた。学校に行かないと体験できない事もあるので、行けるなら行ってほしいが、行かないなら行かないなりのもう学校とは別で在籍する場があればいいと思う。ずっと在籍校とのやりとりがあると、いつまでも自己卑下の感覚があるように思う。街中で在籍校のクラスメイトに会うと、いつも嫌そうにしている。ただただ、嫌なことをガマンして登校して、その1日登校出来たことを喜ぶのか、別の環境で活発にすごせる道をさがすのか…仕事で子どもとの時間がとれない時は「愛情不足」といわれ、仕事をやめてとことん寄り添うと決め実行したら「退職はお子さんにとってプレッシャー」といわれ、正直、相談出来る場はいくつもあったが、毎回正解が無く、振り回されてる気分。
- ・ 学校以外の居場所を探している時、本人が適応指導教室に興味を示したので見学を申し出たが、支援学級在籍の生徒はすでに少人数指導なので、適応指導教室は利用できませんと言われて困った。たまたま隣の市町村にあるフリースペースが見つかり楽しく通うことができているので良かったが、フリースペースのある市町村では、上記のようなことはありませんと先生（フリースペースの）はおっしゃっていた。適応指導教室の利用条件等は国で決まっていらないのか？校舎に入ることすら嫌がる状態では支援学級にも行けない。フリースペースに通うようになる前は、放課後等デイサービスが突然のお願いにも関わらず、平日午前中からの利用を快く受け入れてくださり、とても助かった。
- ・ 学校に通えない日が増える中、もしかしたら行けるかもと考えると、給食を止める事が出来ず払いつづけなくてはいけない事が不登校で悩む中さらに負担が大きくなるので、そういった子達には日払いやお弁当持参等の対応もぜひして頂きたい。
- ・ 居場所づくりという面と、フォローする人員の確保が大切だと思います。又、支援をするための民間のフリースクールにも、もっと国からの支援金や、そういった職業の定

着をはかってくだされればもう少し、苦しまずにすごせる子供たちがふえると思う。本当に気持ちを理解してくれるのは、経験した人たち、本人やその家族だと思う。何かできることがあれば参加したり支援できたらいいと考えている。

- その子その子に合った学びが受けられる場所があると良いと思う。学校や身近な場所で情報が公開されていると相談がしやすい。子供の気持ち、親の気持ちに寄りそってくれる相談員さんがいると良いと思う。スクールカウンセラーでは、ありきたりの事しか言ってくれない。担任の先生に寄っては、面どうと思っている人もいるので、先生になる人には、どう接すると良いか勉強してもらいたい。
- 私の子供は5年生の時病院で限局性学習症、発達性協調運動症、自閉スペクトラム症と診断された。1年生の時何か他の子供と違うと思い児童相談所に行き、相談した時私の仕事がシフト制で不規則な仕事なのでそれが原因なのか相談した所相談員の方が他の親の方は仕事を変えている方もいらっしゃいますよと言われ、テレビでよく言われているただ仕事をこなしている感じがして相談するのがいやになった。子供は字を書くこと、にがて、自分の気持ちを伝えることがにがてで、5年生で発達障害がわかり支援教室に変更をお願いしたが、5年生の途中ということもあり、そして教員委員会での評価も、時期があることから6年生から支援教室になった。その間は通級に行くことになった。もし5年生の途中からでも特別支援に変更が出来ていたらもう少し学校に通えていたかと思うこともある。子供がくるしんでいるのに途中からなぜ支援に変更ができないのか？
- 学校に通えていない子に（先生）あまり家に来てまで「学校において」とかプレッシャーをあてると、子供があせって余計学校に通えないパターンもある。親も先生が家まで来られるとすごくストレスを感じる。
- 学校？先生によって、行けない期間が短くすんなり行ける時もある。今回は、長期にわたり行けず、学校が好きだった子供だったので、家族で悩んで、引越しようかとも思った。病院の先生に何度も話をし、教育委員会の先生にも入ってもらったが、担任の先生が「なぜ、来れなくなった」をりかいしてもらえてないと思う。担任の先生がダメな時は、ストレートに伝えて良いのか？友達や勉強は、話しやすいし、協力し合えるような…支援センターでは、勉強や友達もでき、楽しくしている。
- 小学1年から、学校の担任や学習の仕方などが嫌で行っていない。別室や保健室ですごすこともあまりさせてもらえなかったのが、余計に行かなくなった。又、学校側も「登校は当たり前」という意識でこどもと接していたので良い方向に進まなかった。居住する校区の学校じゃないと行けないというのが古いのではないかと考えていて、小学校も中学校も行きたい学校を選択できるようになれば、多様な学びにつながると思う。
- 世間から言えば、不登校生というイメージは、良い事ではなく悪い事かもしれない。しかし、長い人生の中で、多感な時期に自分の人生を見つめていく時間をゆっくりとすることはとても大事な事だと思う。特に、思春期で二度とこない長い人生の中の一部。教育機関の方々や学校の先生方等、もっと大らかにどっしりと構えて見守って欲しい。

勉強や他人からの評価も大切かもしれないが、情緒を豊かにはぐくむ環境作りもしていただきたい。

- ・ (不登校特例校の各自治体への配置) 不登校特例校が近くにあったら通ってほしい。小学生で不登校になった時、中学校で無償で選択できる学びのスタイルがあれば、かなりの安心感になると思う。
- ・ 一度、全国の教師にアンケートしてみしてほしい「この仕事をたのしんでやっているか」「自分の存在を尊いと思えているか」ここがすっぽ抜けているから、学校教育がいつまでもおそまつなんだと私は思う。アンケートを作って下さってありがとうございました。学校に通う通わないという視点ではなく。まずそもそも、「義務教育」というシステムが崩壊していると思わないか。何故「義務教育」というシステムが必要だったのか。当時は、その必要性があったことを否定しない。ただ、これだけ時代が変わり世の中のうつりかわりがはげしく速い中、なぜ、学校教育のシステムは未だに化石化されたままなのか。私ごとで申し訳ないが、子供の担任をした教師の宿題の出し方をみて、びっくりした。なぜなら、私たちが親が子供のころとなんらかわらないやり方で、教育の現場におられた。びっくりしておどろいた。そして、その教師がめざすところが、自分のうけもつクラスの生徒は、全員がみな同じようにできること、マスターすることを非常につよくいわれていた。こんな空間について果して子供たちは”たのしく”いきいき”と授業を受けられると思うか。他のクラスの保ゴ者からもいわれた。このクラスの子どもたちは委縮してしまって、先生の顔色ばかりみて！こんなことをいわれる理由は、なんなのか。まずは生徒よりも教師の意識改革が第一。学校に通えないとありますが、わが子は学校に通わないと自分で決めた。意志を表現できるわが子がとてもほこらしい。集団教育という枠の中で、個性をつぶすような在り方をいち早くやめてほしい。なんどでもいいます。時代遅れです。いつまで昭和のあり方でいくのか。子供たちはバカではない。私も支援員として働いてきたのでよくわかる。先生たち教師が「あの子はわるい子だ」という子どもこそ、瞳がキラキラ輝いていて、実は優しく、誰よりも人の痛みがわかる共感できるすばらしい子たちばかりだった。ダメな子だとテッセルを貼られている子どもたちのおちこぼれているといわれている子たちのどこを見ているのか。この国の未来に今のままでは何の期待ももてない。人とおなじことができる・みなにあわせられる・もうこんなの必要ない。私たちには、皆さんもロボットではない。ちがいますか。それぞれがどんなカタチであれ尊い存在なのではないのか。うちはたまたま夫が公務員でしたがやはり、こういうことには理解が得られない。常に上にいるという目線から大人のいうことは正しいと一方的なコトバがあたりまえに出てくる。本当に公務員としてある方にはこういう「してやっている」という感覚、態度をあらためてこの支援事業を改革していただきたい。
- ・ 中1の夏休み明けから行きしぶりが急にはじまり、秋には完全不登校になった。小6で2か月間の不登校経験があったため、9月以降すぐに医療機関、スクールカウンセラー、担任の先生との面談…と行動にうつした。秋以降、すっかり家の自室にひきこもり、

返事もしない、食事も家族と一緒にとらないようになっていたため、家以外での居場所づくりを求め、12月末に適応指導教室の見学・面談に行った。教育支援センターでは、子どものスペースを大切に、子どもとの時間を丁寧に対応いただいて、本当に有難く感じている。先生方との関係、他の生徒さんたちとの関係も良好で、いろいろな体験をさせていただいている。担任の先生にもいつも気にかけていただき、電話連絡をもらっている。

- ・ フリースクールに行き始め自分の居場所ができ、毎日の様に家から離れる事ができた。家族以外の人とのかかわりができ、話す友達や、今まで体験した事がないことを体験し、自分を見つめなおす機会ができていていると思う
- ・ 不登校になってからのその子に合っている方法で、勉強なり何かに関われる機会をもっと、いろいろと選んで組み合わせられるようなかこいのない物になるとよいと思う。そして、その家族、もしくはそのまた別のかかわりの機会もとり入れやすくなるとよい。(障がい児の放課後デイサービス等のように、福祉支援があってもいいのでは?) フリースクールは、高くてきびしい。全体(家族・本人)のメンタルの安定が必要。
- ・ 自宅にいる間は、学習する機会が全く与えられず、勉強が遅れたままになっている。もう一度同じ学年をやり直すことはできないのなら、何らかの形で授業を受ける機会を設けてほしい。相談室登校になってからも、一部の教科を受けることができないので内申にかなり影響する。1年生からの内申が高校入試に影響するので、一度の挫折が取り返しがつかないことになるので、挽回する機会と指導をしてもらいたい。事実、不登校を軽視した発言を進路担当の教諭からされた。(不登校の経験がある子が公立高校を受けることはとても失礼な事だ。)
- ・ 何となく学校に行けなくなった不登校の子は集団生活、人に合わせる事が苦手だったり、沢山の課題、各教科で提出する振り返りシートなど問題がいき自分の周りで溢れて処理することができなくなってドロップアウトしてる気がする。人より社会性や協調性を学ぶ必要のある学生が学校に通えなくなることで、余計孤立してしまって、社会性を身に付ける貴重な機会を逃していることに不安を感じる。今現在通っている適応指導教室は、子ども同士が仲良くなって学校に戻れなくなることを危惧して、必要以上に生徒同士が関わることを良しとしていないところがある。それも一理あると思うが、人間関係を築くのが苦手な子どもたちであるからこそ、このような教室でもっと人間関係を円滑に出来るようになるサポートや機会を作ってもらえれば、大きな力になるのではないかと思った。
- ・ 不登校生に対する学校の対応が残念。不登校のこが増えているにも関わらず、別室登校が制限されたり、なかなか通えない状況にある。学校側としては先生の人数が足りないから対応出来ないとのことなので、人員を増やして不登校の子供達が行きたい時に登校出来る環境が出来るとを願う。学校に行きたくても行けない、でも授業を受けたい子供もたくさんいる。オンラインで皆と授業が受けれる環境も整うと嬉しいです。今はオンライン授業全くなので。

- より多くの選択肢をとれるように、民間の力も借りつつ生徒児童に端末があるので、最大限活かせる環境をつくり学気持ちをサポートできるようにして欲しい。一般教室までは難しいにしても、専門教科の先生が学び方をもっとフォローしても良いと強く思う。
- 現在、民間施設に支援してもらっているが、それでも、本人自立には、この先も時間がかかるのだろうと実感している。学校や適応指導教室など公的機関は形ばかりの対応で無理だと諦めている。そういう意味でも、難しい制限も少なく、対応スピードも速い、民間にしっかり支援してもらって、その色々な成功例や広がった選択肢をいずれ、公的施設にも。とにかく、今を生きる苦しんでいる子たちのために、スピードをもって対応して貰いたいと願う。
- 以前のような、登校を最終目標とせず、学校以外での学びの場も認めていこう、という姿勢はよいと思う。しかし一方で、やはり公立の学校で皆と学ぶというのは子どもの権利である。年々これだけ多くの子どもが学校に行けなくなるのに、その学校じたいのあり方を見直さずして、政策を打ち出しても根本的な解決にはならないと思う。もっと子どもの意見や心を尊重できる関わりができるよう、教員のゆとりが必要。信頼できる大人がいれば、子どもは学校にいてもいいなと思うようになると思う。
- 居住自治体では不登校であっても行き場がなく選択肢が極端に限られる。当地域の場合適応指導教室がなく、一昨年より都道府県主導で学校内に教室に行きづらい生徒向けの教室を開講している。しかし、そもそも学校へ行けないという我が子には選択肢が無い事変わらない。結果、経済的負担を強いられながら他の市町村にまで通わせて支援団体のサポートを受けている状況である。各自治体に、学校外で、かつ、学校とは関わりの無い状態での支援教室等の設立運営や不登校で外部のサポートを受けている家庭への金銭的な支援制度の早期確立を強く要望する。
- 不登校特例校の設置を国から働きかけてほしい不登校保護者会で要望を出しているが市町村議会に無視されている。不登校児童の中には、小学3年生の学習も分からないまま中学に入学する子達がいる（もちろんその後も不登校です）教室以外の学習支援の場が早急に必要ですが、市町村は「国の通達に従う」と言っている。湾曲した解釈を何もしない。現在も教室復帰を目標に掲げている。具体的に分かりやすく伝えてほしい。経済的に困窮します経済的支援が必要。ギフトドや環境感受性ラン型といった視点で支援を考えてほしい（いじめ、非行、ネグレクトなどは少数派です）
- 不登校特例校があっても本人が希望しても校区でなければ通えない。地域によって通える機関や施設の数も質も差がありすぎる。不登校＝フリースクールといわれますがまず地方にはないし保護者の収入次第で格差がありすぎる。子どもは不登校になりましたが学習権まで放棄した訳ではない。時代にあった学校の在り方、すべての地域が賄える不登校特例校や通信制中学校などがあれば学習が保証されるのではないかと思う。
- 今の日本の学校教育自体が先進国よりも何十年も遅れてしまっている。これを見直さない限りは日本社会全体に影響を及ぼし続け、どの世代にとっても良いことにはならな

い。先進国や昔の寺子屋スタイルに戻していくなど、今の学校教育を見直すことがとても大事だと思う。登校している子が健全だとは全く思わない。

- 不登校特例校を各市町村に一校作って欲しい。学校に通えない場合の教育の確保をしてほしい。いじめ加害者の指導について、加害者側が教室から一時離れる等の指導を行なってほしい。中学校での評価制。相談室登校の場合、教室に入れていない為に評価が非常に低い。
- 息子はいわゆる2Eギフテッドにカテゴライズされる子ども。息子が学校へ通えなくなったのは「担任の不適切対応と同学年によるいじめ」だが、学校はそれを伝えても何も対応していない。息子のような凸凹が大きい子どもの場合、一対一のコミュニケーションに問題はなくても一対小集団などになると途端に苦しいものになる。息子にとっては、仲間作りが1番の課題になっている。それを無理なくできる場がリアルな場所でもネット上でも見つければいいな、と思っている。
- 平日の昼間に自由に集える場所が欲しい。学習も遊びもでき、一方的な教師が教えるスタイルの学びでなく、自分から取り組む楽しさを見つけそれをサポートしてくれるような施設が欲しい。今あるフリースクールは金銭的に余裕がないと通えない。
- 不登校の子供は敏感な子が多いと思う。それを踏まえて、声かけの仕方を少し変えていただけたらなと思った。
- 学校は登校を目的としているようで、学校以外の学びを認める姿勢が感じられない。学校側がもっと勉強して情報を提供してほしい。個々で情報を探さなければたどり着かない、救われない。大切なのは学校に通うことではなく、子どもが健やかに育つことであり学ぶ機会を得ること。学校はその一つの手段。義務教育だから通わなければいけないというのも本当にやめてほしい。教員への周知徹底を求める。
- 私の娘の場合、中学1年の時の校長先生から、発達障害があるとしか思えない。落ち着くまで学校へ連れてくるな。と言われた。どれだけ教育委員会へ訴えようと思ったことか。現在は、民間のフリースクールの素晴らしい先生との出会いで元気に過ごせています。発達障害だなんて全くないです。ああいう先生が中学校の校長だと思つと恥ずかしい。なんとかしてほしい先生だった。
- 学校の先生は、登校する生徒の勉強を教える為の勉強をしていらっしゃるの、不登校になった場合、間違つた対応をとる事が多いのかな？と思う。不登校対応の部署がいかがん教育委員会内にできたらいいのに…と思う。学校内の先生方に全て対応させている事が間違つていると思う。市町村におけるフリースクールの開設を切に望む。学校に行けない子供達はほったらかしになっている。

学校に通えていないときの支援しえんに関するアンケート

◆ アンケートへのご協力をお願い

現在、そうむしょう総務省では、小中学生が学校に通えていないときに、周りの方たちはどのようなお手伝いができているか、そのお手伝いはその小中学生のためになっているのかについて、調べています。

このアンケートは、その調査の参考とするために、いろいろな事情から学校に通えていない（通えていなかったことのある）小中学生のみなさんに、周りの方たちのお手伝いを受けて感じたことなどをお聞きするものです。

答えてもらった内容を、この調査以外のために使ったり、あなたのお名前やお住まいの市町村名、学校名などが分かる形で公表したりすることはありません。また、あなたが通う学校やフリースクールなどの施設しせつに知られることもありませんし、そうむしょう総務省からも質問をしたりしませんので、思ったり感じたりしたままのご意見を記入してください。

答えてもらった内容は、学校に通えずに悩なやんでいる小中学生のみなさんに対して、周りがどのようにお手伝いをしていけばよいかを考えるときの大切な情報となるものです。

ぜひ、アンケートにご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

令和 3 年 月

そうむしょうぎょうせいひょうかきょく
総務省 行政 評価局

令和 4 年（2022 年） 月 日（ ）までに

ゆうびん
郵便ポストに入れるか、WEB からお答えください。

◆ お答えいただくに当たってのお願い

- 1 お名前を書く必要はありません。
- 2 アンケートは、全体で 11 ページあります（10 分くらいで終わります。）。
- 3 お答えは、あなたのお考えにもっとも近いものを選び、その番号に○印をつけてください。
「当てはまるもの一つに○印」、「当てはまるものすべてに○印」など、質問によって、つける○印の数が^{ちが}違う場合がありますので、ご注意ください。
- 4 感想などの「自由回答」^{らん}欄については、思ったり感じたりしたままの考えを記入してください。
- 5 令和 3 年（2021 年） 月 日時点の^{じょうきょう}状況を記入してください。
- 6 記入されたアンケートについては、一緒^{いっしょ}に入っている返信用封筒（^{ふうとう}総務省 ^{そうむしやうぎやうせいひやうかきよく}行政 評価局
あて）に入れ、令和 4 年（2022 年） 月 日（ ）までに^{ゆうびん}郵便ポストに入れてください。
切手はいりません。
- 7 本アンケートについては、お送りした紙の調査表のほかに、WEB 上で答えることもできます。WEB 上で答える場合は、次の WEB 回答用アドレスにアクセスし（※）、ログイン用 ID とパスワードを入力してから、お答えください。
（※）QR コードを読み取ることでアクセスすることもできます。

< WEB 回答用アドレス > <https://…….jp>
< ログイン用 ID（半角入力） > ○○○○○○
< パスワード（半角入力） > ○○○○○○

アドレス読み
取り用 QR コ
ード

◆ 本アンケートについてのお問合せ先

そうむしやうぎやうせいひやうかきよく
総務省 行政 評価局（財務、文部科学等担当室）

担 当： ○○

電 話： 03-5253-5433

メー ル： ……@soumu.go.jp

はじめに

【全員の方にお聞きします。】

問1 今の^{じょうきょう}状況について、お聞きします。

① もしよかったら、お住まいの市町村名を教えてください。

市町村名	(市・町・村)
------	---------

② もしよかったら、通っている(いた)学校名を教えてください。

学校名	
-----	--

③ 何年生ですか。(当てはまるもの一つに○印)

1	小学 1 年生
2	小学 2 年生
3	小学 3 年生
4	小学 4 年生
5	小学 5 年生
6	小学 6 年生
7	中学 1 年生
8	中学 2 年生
9	中学 3 年生

④ 学校に通えなくなり始めたのは何年生のときですか。(当てはまるもの一つに○印)

1	小学 1 年生
2	小学 2 年生
3	小学 3 年生
4	小学 4 年生
5	小学 5 年生
6	小学 6 年生
7	中学 1 年生
8	中学 2 年生
9	中学 3 年生

⑤ 学校に通えていないとき、平日の日中に一番多くの時間を過ごしている(いた)場所はどこですか。(当てはまるもの一つに○印) (3 又は4に○をした方は、もしよかったら、施設名も教えてください。)

1	自宅
2	学校(保健室や図書室などの教室以外の場所)
3	教育支援センター(適応指導教室を含みます。) (施設名:)
4	フリースクールなどの民間施設 (施設名:)
5	塾
6	その他(自由回答)

学校に通えなくなり始めたときのことについて

問 2 あなたが学校に通えていないことの^{なや}悩みなどを、学校に相談しやすかったかどうかについて、お聞きします。

【全員の方にお聞きします。】

- ① あなたが学校に通えずに^{なや}悩んでいたとき、学校で、^{だれ}誰が、いつ、どこで、どのように相談を聞いてくれるのかなど、相談に必要な情報について、学校からの案内で知っていましたか。(当てはまるもの一つに○印)

1	知っていた
2	知らなかった

【全員の方にお聞きします。】

- ② 学校に通えていないことの^{なや}悩みや不安について、学校に相談しやすかったと思いますか。
(当てはまるもの一つに○印)

1	相談しやすかった
2	相談しづらかった
3	どちらでもない

【②で2を選んだ方にお聞きします。】

③ 学校に相談しづらかったと思った理由について、どのようなものがありますか。(当てはまるものすべてに○印)

1	電話やメール、会って話し合うなど、どのような方法で相談すればよいか分からなかったから
2	<small>たんいん</small> 担任 や保健室の先生、スクールカウンセラーなど、 <small>たれ</small> 誰 が相談を聞いてくれるのか分からなかったから
3	相談したことがほかの人に知られないか不安だったから
4	いつ、どこで相談を聞いてくれるのか分からなかったから
5	その他（自由回答）

学校の教室に通えなくなったあとに、あなたが、どこで、どう過ごしたいと思ったかについて

【全員の方にお聞きします。】

問3

- ① 学校の先生たちに対して、どこでどのような学び方・過ごし方をしたいのかといった、あなたの気持ち（※）を伝えることができたと思いますか。（当てはまるもの一つに○印）

（※）例えば、学校には通いたいが教室には行きたくない、学校以外のところで勉強を続けたい、部（クラブ）活動には参加したいといったことなどの気持ち（希望）のことです。

1	十分に伝えることができたと思う
2	ある程度は伝えることができたと思う
3	あまり伝えることができなかったと思う
4	ほとんど伝えることができなかったと思う

【①で3または4を選んだ方にお聞きします。】

- ② あなたの気持ちを伝えることが少なかったことで、あなたが悩んだり、困ったりしたことがあれば、その内容をお答えください。

自由回答	
------	--

学校以外のところに通うこととなつてからの^{じょうきょう}状況について

【教育^{しえん}支援センター（適応指導教室^{ふく}を含みます。）やフリースクールなどの学校以外のところに通っている（いた）方にお聞きします。】

（→ 当てはまらない場合は問5にお進みください。）

問4

- ① あなたが学校以外のところに通うこととなつてから、そこでのあなたの勉強や生活がうまくいっているかどうかについて、学校は気にかけてくれている（いた）と思いますか。（当てはまるもの一つに○印）

1	とてもそう思う
2	そう思う
3	あまりそう思わない
4	まったくそう思わない
5	分からない

- ② 学校の先生たちに学校以外のところでの^{なや}悩みやこれから先どのような学び方・過ごし方をしたいのかといった希望を伝えることができたと思いますか。（当てはまるもの一つに○印）

1	十分に伝えることができたと思う
2	ある程度は伝えることができたと思う
3	あまり伝えることができなかったと思う
4	ほとんど伝えることができなかったと思う

【②で3または4を選んだ方にお聞きします。】

- ③ あなたが^{なや}悩みや希望を伝えることが少なかったことで、あなたが学校以外のところに通うことになった後に^{なや}悩んだり、^{こま}困ったりしたことがあれば、その内容をお答えください。

自由回答	
------	--

学校に通えなくなってから、今までを振り返ってみて

【全員の方にお聞きします。】

問5 あなたが学校に通えなくなってから、悩みや要望を相談できて頼りになる人はいましたか。(当てはまるものすべてに○印)

1	いた(家族)
2	いた(家族以外)
3	いなかった

【全員の方にお聞きします。】

問6 あなたが現在通っている(または当時通っていた)学校の別室(保健室や図書室など)や教育支援センター(適応指導教室を含みます。)、フリースクールなどでは、あなたの希望に添った満足できる過ごし方ができていますか(できていましたか。)(当てはまるもの一つに○印)

1	十分できている(十分できていた)
2	ある程度できている(ある程度できていた)
3	どちらとも言えない
4	あまりできていない(あまりできていなかった)
5	まったくできていない(まったくできていなかった)

【全員の方にお聞きします。】

問7 あなたが学校に通えなくなってから、周りの方たちのお手伝いを受けてきて、ご意見やご要望などあれば、なんでも自由に記入してください。

質問は以上です。答えていただきありがとうございました。

記入いただいたアンケートは、書き忘れがないか確認して、一緒に入っている返信用封筒（いっしょ ふうとう 総務省 行政 評価局 そうむしょうぎょうせいひょうかきょく あて）に入れ、令和4年（2022年） 月 日（ ）までに郵便ポストに入れてください。

よろしくお願いします。

学校に通えていない児童生徒への支援に関するアンケート

◆ アンケートへのご協力をお願い

現在、総務省（行政評価局）では、不登校の児童生徒に対する支援に関する政策の評価を行うため、各地域で学校に通えていない児童生徒への支援の実態等について調査を行っています。

学校に通えていない児童生徒一人ひとりにとっての最適な居場所や教育の機会が確保されるためには、児童生徒が信頼できる支援者を得て、どのような選択をするのか検討できることが重要だと考えています。

そのため、本調査は、学校に通えていない児童生徒一人ひとりの状況に応じた支援策を検討するための活動とその効果について把握することとしています。

今回、回答をお願いするアンケートは、この調査の一環として、学校やその他の関係機関などから受けた支援や情報提供について、保護者の皆さまが感じられたことなどをお尋ねするものです。

回答いただいた内容は、学校に通えずに悩んでいる小中学生に対して、周りがどのように支援していけばよいかを考える際の大切な情報となるものです。また、本調査以外の目的に使ったり、回答した方のお名前やお住まいの市町村名、学校名などが分かる形で公表したりすることはありませんし、回答いただいた内容が、学校やフリースクール等の施設に知られることもありません。また、総務省からも問合せ等を行ったりしませんので、現状や率直なご意見を記入してください。

また、アンケートは、保護者の方とは別にお子さま向けのアンケートもございます。本調査の趣旨にご理解をいただき、それぞれのアンケートにご協力いただけますと幸いです。よろしくごお願い申し上げます。

令和 3 年 月
総務省行政評価局

令和 4 年（2022 年） 月 日（ ）までに

投函又は WEB から回答してください。

◆ 回答していただくに当たってのお願い

- 1 お名前を記入していただく必要はございません。
- 2 アンケートは、全体で 12 ページあります（所要時間 15 分程度）。
- 3 回答は、基本的に該当する選択肢の番号に○印を記入していただく方法にしておりますが、「当てはまるもの一つに○印」、「当てはまるものすべてに○印」など、項目によって、記入していただく○印の数が異なる場合がありますので、ご注意ください。
- 4 感想などの「自由回答」欄については、率直なご意見をご記入ください。
- 5 令和 3 年（2021 年） 月 日時点の状況をご記入願います。
- 6 記入いただいたアンケートについては、お手数ですが、同封しております返信用封筒（総務省行政評価局宛て）に入れ、令和 4 年（2022 年） 月 日（ ）までに投函してください
ますようお願いいたします。切手は不要です。
- 7 本アンケートについては、お送りした紙の調査表のほかに、WEB 上で回答いただくこともできます。WEB 上で回答する場合は、次の WEB 回答用アドレスにアクセスし（※）、ログイン用 ID とパスワードを入力の上、ご回答願います。
（※）QR コードを読み取ることでアクセスすることもできます。

< WEB 回答用アドレス > <https://…….jp>

< ログイン用 ID（半角入力） > ○○○○○○

< パスワード（半角入力） > ○○○○○○

アドレス読
み取り用
QR コード

◆ お子さまのアンケート回答へのご協力をお願い

お子さまが回答に困っている場合には、お子さまが質問の内容を理解し、感じたことをそのまま記入できるようお手伝いをしていただけると幸いです。

◆ 本アンケートについてのお問合せ先

総務省行政評価局（財務、文部科学等担当室）

担 当： ○○

電 話： 03-5253-5433

メー ル： ……@soumu.go.jp

はじめに

【全員の方にお尋ねします。】

問1 お子さまの状況について、お尋ねします。

① もしよろしければ、お子さまがお住まいの市町村名を教えてください。

市町村名	(市・町・村)
------	---------

② もしよろしければ、お子さまが通っている(いた)学校名を教えてください。

学校名	
-----	--

③ お子さまは、何年生ですか。(当てはまるもの一つに○印)

1	小学1年生
2	小学2年生
3	小学3年生
4	小学4年生
5	小学5年生
6	小学6年生
7	中学1年生
8	中学2年生
9	中学3年生

- ④ お子さまに学校に通えない傾向が見え始めたのは何年生のときですか。（当てはまるもの一つに○印）

1	小学1年生
2	小学2年生
3	小学3年生
4	小学4年生
5	小学5年生
6	小学6年生
7	中学1年生
8	中学2年生
9	中学3年生

- ⑤ お子さまが学校に通えていないとき、平日の日中に最も多くの時間を過ごしている(いた)場所はどこですか。（当てはまるもの一つに○印）（3又は4に○をした方は、もしよろしければ、施設名も教えてください。）

1	自宅
2	学校（保健室や図書室などの本来通う教室以外の場所）
3	教育支援センター（適応指導教室を含みます。） (施設名：)
4	フリースクールなどの民間施設 (施設名：)
5	塾
6	その他（自由回答）

学校に通えない傾向が見え始めたときのことについて

問2 お子さまが学校に通えていないことについての悩みなどを、学校に相談しやすかったかどうかについて、お尋ねします。

【全員の方にお尋ねします。】

- ① お子さまが学校に通えていないことで悩んでいたとき、学校で、誰が、いつ、どこで、どのように相談を聞いてくれるのかなど、相談に必要な情報について、学校からの案内で知っていましたか。（当てはまるもの一つに○印）

1	知っていた
2	知らなかった

【全員の方にお尋ねします。】

- ② 保護者の皆さまが抱えている、お子さまが学校に通えていないことの悩みや不安について、学校に相談しやすかったと思いますか。（当てはまるもの一つに○印）

1	相談しやすかった
2	相談しづらかった
3	どちらでもない

【②で2を選んだ方にお尋ねします。】

③ 学校に相談しづらかったと思った理由について、どのようなものがありますか。（当てはまるものすべてに○印）

1	電話やメール、面談など、どのような方法で相談すればよいか分からなかったから
2	担任や養護教諭（保健室の先生）、スクールカウンセラーなど、誰が相談を聞いてくれるのか分からなかったから
3	相談したことが漏れないよう、プライバシーへの配慮がきちんとされるか不安だったから
4	いつ、どこで相談を聞いてくれるのか分からなかったから
5	その他（自由回答）

お子さまが学校の教室に通えなくなって以降、どこで、どのような学び方・過ごし方をするのがよいかを考えている際の状況について

【全員の方にお尋ねします。】

問3 学校の教室に通えなくなったことで、お子さまがどこでどのような学び方・過ごし方をするのがよいかを考える際に参考となる情報（※）について、お尋ねします。

（※）ここでは、学校の別室（保健室や図書館など）や教育支援センター（適応指導教室を含みます。）などの公的な機関、フリースクールなどの民間施設において、こういった方針の下に、こういった学習活動や居場所づくりのための活動が行われているのかといった内容を指します。

① お子さまの学び方・過ごし方を考える上で、どこでどのような支援が行われているかといった情報があらかじめ普段から提供されることは必要だと思いますか。（当てはまるもの一つに○印）

1	必要である
2	必要ではない
3	分からない

② お子さまの学び方・過ごし方を考える上で、必要だと思う情報は何か。（当てはまるものすべてに○印）

1	教育支援センター（適応指導教室を含みます。）などの公的な機関で行われている支援の内容
2	フリースクールなどの民間施設で行われている支援の内容
3	学校以外の機関で支援を受けた場合に、学校への出席扱いになるかどうかに関する情報
4	どこに相談すればよいか、どういった専門家に話を聞いてもらえるのかといった相談窓口に関する情報
5	その他（自由回答）

③ 必要だと思われる情報を得られなかったことで、悩んだり、困ったりした経験があれば、その内容をお答えください。

自由回答	
------	--

【全員の方にお尋ねします。】

問4

- ① 学校・教育委員会や民間施設等に対して、どこでどのような学び方・過ごし方をしたいのかといった、お子さまや保護者の方の要望（※）を伝える機会があったと思いますか。（当てはまるもの一つに○印）

（※）「要望」とは、例えば、充実した学習のサポートが欲しい、医療機関や専門家のサポートが欲しい、課外活動を中心としたい、本人の意向を尊重した時間割が選べる場所にしたい、学校への出席扱いとなる施設にしたいといったことを想定しています。

1	十分に伝える機会があったと思う
2	ある程度は伝える機会があったと思う
3	あまり伝える機会がなかったと思う
4	ほとんど伝える機会がなかったと思う

【①で3又は4を選んだ方にお尋ねします。】

- ② 自分たちの要望を伝える機会が少なかったことで、悩んだり、困ったりした経験があれば、その内容をお答えください。

自由回答	
------	--

問5 不登校児童生徒の支援に対する国の方針（※）について、お尋ねします。

（※）文部科学省は、平成29年4月に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」に基づいて基本指針を定めており、その中で、「不登校児童生徒が行う多様な学習活動の実情を踏まえ、個々の不登校児童生徒の状況に応じた必要な支援が行われることが求められるが、支援に際しては、登校という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある。」としています。

【全員の方にお尋ねします。】

- ① 国は学校に通えていないお子さまへの支援に際して、「登校という結果のみを目標にしない」という方針を出していますが、この方針について知っていましたか。（当てはまるもの一つに○印）

1	知っていた
2	知らなかった

【①で2を選んだ方にお尋ねします。】

- ② お子さまが学校に通えなくなったとき、「支援に際しては、登校という結果のみを目標にしない」という方針を知っていれば、学校以外の支援先を選んでいただけた可能性はありますか。（当てはまるもの一つに○印）

1	非常にある
2	ややある
3	あまりない
4	まったくない
5	分からない

学校以外の機関や施設に通うこととなって以降の状況について

【お子さまが学校以外の機関や施設（教育支援センター（適応指導教室を含みます。）などの公的な機関やフリースクール等の民間の施設など）に通い、学習や体験活動などを行っている（いた）方にお尋ねします。】

（→ 当てはまらない場合は問7にお進みください。）

問6 お子さまが学校以外の機関や施設に通うこととなって以降の学校との関わりについて、お尋ねします。

- ① 学校以外の機関や施設でのお子さまの学習や生活がうまくいっているかどうかについて、学校は気にかけてくれている（いた）と思いますか。（当てはまるもの一つに○印）

1	とてもそう思う
2	そう思う
3	あまりそう思わない
4	まったくそう思わない
5	分からない

- ② 学校以外の機関や施設に通うこととなって以降、学校に対して、保護者の方の日ごろの悩みやお子さまの今後の学び方・過ごし方に関する要望（※）を伝える機会があったと思いますか。（当てはまるもの一つに○印）

（※）学校以外の機関や施設に通うことになって以降、お子さまの状態が改善したり、時間が経過したりすることで求める支援にも変化が出てくる可能性があります。ここでの「要望」とは、例えば、学習のペースを上げたい、より集団活動への参加の場を増やしたいといった、当初の要望から変化のあった要望のことを想定しています。

1	十分に伝える機会があったと思う
2	ある程度は伝える機会があったと思う
3	あまり伝える機会がなかったと思う
4	ほとんど伝える機会がなかったと思う

【②で3又は4を選んだ方にお尋ねします。】

- ③ 悩みや要望を伝える機会が少なかったことで、お子さまが学校以外の機関や施設に通うことになって以降に、悩んだり、困ったりした経験があれば、その内容をお答えください。

自由回答	
------	--

学校に通えない傾向が見え始めて以降、今までを振り返ってみて

【全員の方にお尋ねします。】

- 問7 お子さまが学校に通えない傾向が見え始めて以降、学校や学校以外の相談先と接する機会や、教育支援センター（適応指導教室を含みます。）やフリースクールといった新たな居場所などで過ごす機会などを通じて、悩みや要望を相談できて頼りになる人はいましたか。（当てはまるもの一つに○印）

1	いた
2	いなかった

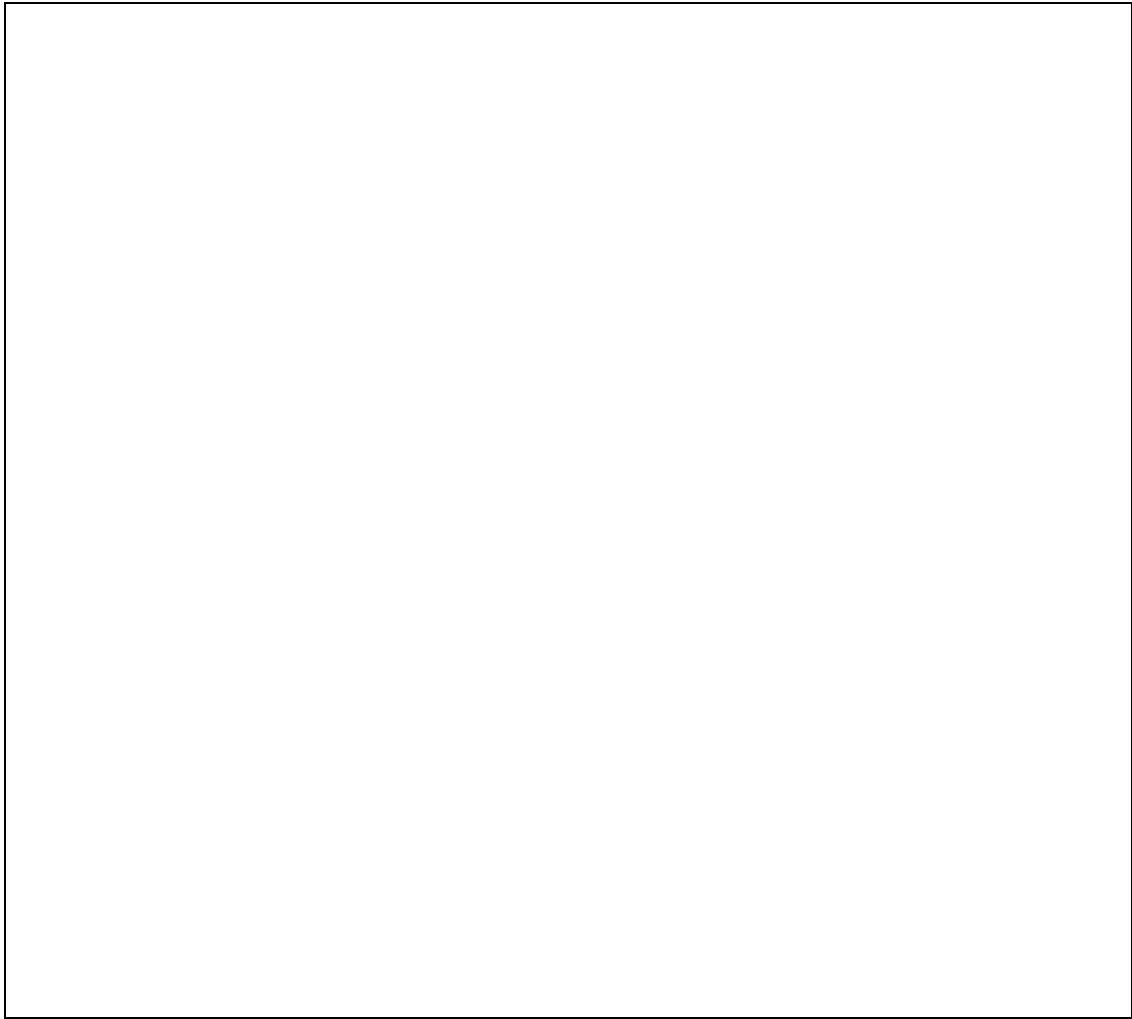
【全員の方にお尋ねします。】

- 問8 お子さまが現在通っている（又は当時通っていた）学校の別室（保健室や図書室など）や教育支援センター（適応指導教室を含みます。）などの公的な機関やフリースクールなどの民間施設では、お子さまや保護者の方の希望に添った満足できる過ごし方ができていますか（できていましたか。）。（当てはまるもの一つに○印）

1	十分できている（十分できていた）
2	ある程度できている（ある程度できていた）
3	どちらとも言えない
4	あまりできていない（あまりできていなかった）
5	まったくできていない（まったくできていなかった）

【全員の方にお尋ねします。】

- 問9 学校に通えていないお子さまに対する学校や学校以外の機関・施設による支援全般について、ご意見やご要望などありましたら、自由に記入をお願いします。



質問は以上です。お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

記入いただいたアンケートは、記入漏れがないかご確認の上、同封しております返信用封筒（総務省行政評価局宛て）に入れ、令和4年（2022年） 月 日（ ）までに投函してください
ますようお願いいたします。